

下
總
禮
畜
場
事
業
問
答
記

W 373
12



850357

明治十五年二月十九日

編輯

水室

棗

谷

清

農務局長

片山

毅

告

課

高

里

田

苗

下總種畜場事業問答筆記印刷之致庶務會計兩局一
請求案個

一 下種畜場事業問答筆記

一 冊

一 今附祿盡圖

一 冊

不者附十由年者乃下總種畜場ニ於テ第一内國勸業博
覽會ニ致参集又各地方先農輩ト墾耕牧畜ニ関スル事
業ノ梗概ヲ問答筆記セシメ、テ該業参考ノ為至
一有之矣尚至急活板印刷以度及心ニ盡圖一寫真ヲ

校了

描換之銅鑄ニ附シ別冊附録ニ致ス方可也ト存製本
體載ノ數ハ洋紙ノ摺ニシテ各府縣ヘ之丈々方配ノ積リニ有之
註ニ準シ申度右ハ各府縣ヘ之丈々方配ノ積リニ有之
其間ニ百部大ク出来ヌ候仕度此段乃即請成也

長

庶務部長

會計部長

下
總

種畜場事業問答記

昔老農諸君

若山牧教

衆ニ農談會ニ於テハ多年経験ノ實跡ニ就テ日々計帳ヲ
 盡ナシ又々談會其ノ精者ハ方今牧畜肉産等ノ事業最モ
 喫急ニシテ勿謂スヘカヲ云ル時概ラ察シ遠路ヲ辞セヌ
 未觀セラルル々ノ爲ニタル莫ニ他家ノ爲ニ場負テ置ス
 ル所ナリ抑本場ハ諸君ノ既ニ不知セラル、如ク専ラ度
 業ヲ主眼トスルヲ以テ曩キニ秋隘ノ官廳ヲ設ケテ日常事
 務ニ支障無キヲ足レリトス故ニ今諸君ノ末場ニ除シ多
 量ヲ廻ワルノ席ヲ欠ケリ因テ多ニ庭中ヲ掃ツテ延拓ス
 ルハ己ハム得サシニ出ラタルナリ却親農談會肉産以來
 即場農学校等ニ於テモ教回ノ演説アリシ後ナレハ余ハ
 之ニ換ル、諸君ノ場内各事業ヲ歴覽アルニ先々本場創

業ノ大略ヲ陳述セシム
支レ木部牧畜ノ業タル處ク往古ニ基スト金氏中世以降
委靡振ハ舞ル久シ維新ノ始ニ迄ヒ庶績咸ク熙リ百業五
ニ興ル是時ニ當リ獨リ牧畜ノ事業尙ホ故ク所アルニ似
タリ是ニ於テカ性ニ民部省不省教養等ヲシテ改米諸州
ニ派遣ニ專ラ同墾牧畜等ノ事業ニ就テ其地ヲ調査スヘ
キノ命アリ教養等帰朝ノ後漸次此等ノ事業ヲ興サント
謀ルニ際シ適系國人ギー、ダブリエー、フワプギヨンス達
白ノ音アリテ内務省之ヲ嘉納スル所トナリ明治八年故
大久保内務卿上請、上裁可ヲ得テ創メテ茲ニ一大牧
場ヲ肉ヲ海外良好、種畜ヲ索メ畜産改良繁殖ノ方法ヲ
施シ併セラ茶西農器ノ使用ヲ試ニ以テ混同農事ノ模範

ヲ示シ牧畜耕種ヲシテ倍改進スル所アラシメントセ
リ今支レ内地牛馬ノ牧ハ牧人百人之比例ヲ算スルニ
僅ニ七頭強ニ過キ不入且ツ牛馬ノ如キ其體格共ニ矮小ニ
シテ第一馬ハ外國產ニ比スレハ墮ニ農用ニ於テ不充分
ナルノミナラス之ヲ兵事ニ用ハルニモ適當ノ要需ニ充テ
難シ而シテ牛ノ如キモ本體格ノ均整ナラザルハ固ヨリ
畜ヲ俟タス其乳肉共ニ僅小ニシテ精良ナラス其事タレ
本日諸君現物ニ就キ一見シテ瞭然セラルベシ又近來我
國需用ノ絨布頗ル多額ニ登ルハ實ニ勞ノ然ラシムル所
タルハ已ニ諸君ノ熟知セラル、如ク之ヲ綿綿ニ比スレ
ハ其實善ク體軀ヲ温メ又能ク雨湿ヲ防リ等ノ効用ニ起
因入ルナリ然レニ本邦未タ牧羊ノ道開ケス此ノ如クニ

シテ花菱紙過スル時ハ百年ノ後ト雖比年々歳々此供結
ツ外國ニ仰カサルヲ得ス其レ本場創業以来主トシテ種
畜ノ畜殖ヲ謀ル所以ナリ又農具ニ至ラハ流カ島カラ始
トシテ因墾耨園常用ノ器具ニ至ル迄之ヲ本邦ノ農
具ニ比スレハ特ニ其ノ数ノ居多ナルノモナラズ其創害
得夫々ニ思想ノ外ニ至リト云フ可シ但世ノ論者此ヲ惟
レ察スレテ偏ニ拳西農具ヲ以テ鉅大ニ區キ内地ノ耕耘
ニ適セストスルモノ往々アリト虽尼苟ニ進取ノ氣カア
ル者ノ取ラサル所ナリ然ルニ改禾ノ如キハ迄未大ニ改
良進歩シ又農具新造ノ者尠シトセズ某莖園墾播種收穫
用器ナ固ハス其地形ト土性トニ隨ヒ練熟ナリ農夫ヲシ
テ細大之ヲ適用セシムレハ徒費徒勞ヲ省キテ其便益ヲ

得ルコト實際ニ徴シテ知ル所ナリ其細目ニ至テハ本日
場負ツレヲ各種実物ニ就キ之ヲ解説セシメントス我輩
本場開設ノ主意ヲ茲ニ略述シ候セテ諸君ノ未場ヲ謝

種畜場紀事

本場ハ景ニ十葉縣下之燕国仰哺垣生ノ西郡ニ跨ル荒瘠

津浪ノ島牧タリ作地タルハ五餘ル而宮田内野高野取番夫

ハ遠リ中吉ニ淵深レハニ事蹟ノ管繳スルハ無時ノ頻里ニ牧馬

ノ事ノ博ヲ勵ルヤニシト云ハルニ業成ノ領スルハ無時ノ頻里ニ牧馬

立ノ事ノ博ヲ勵ルヤニシト云ハルニ業成ノ領スルハ無時ノ頻里ニ牧馬

二ノ事ノ博ヲ勵ルヤニシト云ハルニ業成ノ領スルハ無時ノ頻里ニ牧馬

所ノ事ノ博ヲ勵ルヤニシト云ハルニ業成ノ領スルハ無時ノ頻里ニ牧馬

ヲ取三畜七牧十編五所余十所余十所余十所余十所余十所余十所余

下重七牧三畜七牧十編五所余十所余十所余十所余十所余十所余十所余

リ之ヲニ大別シ一ヲ取香種畜場取今ノ三且ト称ス昂ヤ

殖生和ニ属シ全地積千三百廿五町五反是畝積壹拾壹町五反

シラウ馬ヲ養養シ倍ラ開墾ノ事業ヲ行フ一ヲ牧羊場ト
林ス其位置ハ仰騰殖生ノ西郡ニ區リ全地積三千百五町

西ノ海岸ヲ距ル七里南ハ山嶽ニ連リ東南ハ矢立浦ヲ
距ル九リ五里西北ニ印播沼アリ東京ヲ距ル陸路七里
余気候ハ東京ト大同小異極暑平均年長寒計ハ極度
極寒ニ極度地形率ネ平坦土質豊穠松林所々ニアリ
木莽葦田望曠漠ノ象望ナリ

明治八年五月開牧委員指教名ヲ置キ岩山勸業推助ヲシ
ラ西場ノ事務ヲ幹理セシメ米田牧羊家ノ一、ガブリユ一
アツア、ジョンスヲ僱ヒ導ラ牧羊ノ業ヲ傳ヘシメ又全田
人ドクトル、レーサム、ヲ僱ヒ補助ト為シ村縣ヨリ五十者
余名ノ生徒ヲ徵集シテ牧羊ノ方法ヲ教授シ傍ラ牛馬豚
ノ管理及ヒ泰西農器ノ用法ヲ傳習セシムルニ努メリ
全八年九月政府内務卿大ニ保利通勸業推助河瀬喬治委員

ラ寧井ヲ本場ニ來リ耕牧ニ充ツベキ山地ノ全面ヲ定

セリ牧羊場ハ全地ヲ分ラ六區トシ第一區別六百〇七町

第二區別三百〇七町第三區別三百〇七町第四區別

三百〇七町第五區別三百〇七町第六區別三百〇七町

第七區別三百〇七町第八區別三百〇七町第九區別三百〇七町

第十區別三百〇七町第十一區別三百〇七町第十二區別三百〇七町

第十三區別三百〇七町第十四區別三百〇七町第十五區別三百〇七町

第十六區別三百〇七町第十七區別三百〇七町第十八區別三百〇七町

第十九區別三百〇七町第二十區別三百〇七町第二十一區別三百〇七町

第二十二區別三百〇七町第二十三區別三百〇七町第二十四區別三百〇七町

第二十五區別三百〇七町第二十六區別三百〇七町第二十七區別三百〇七町

第二十八區別三百〇七町第二十九區別三百〇七町第三十區別三百〇七町

第三十一區別三百〇七町第三十二區別三百〇七町第三十三區別三百〇七町

第三十四區別三百〇七町第三十五區別三百〇七町第三十六區別三百〇七町

トナシ牛既志個ニ耕牛數頭ノ比準ニシテ三頭ヲモ組ト
ナシ都ラ指ハ頭ラニ組ニ之テ既動作ニ別ル、ラ以テ
地ノ犁ニ六頭ヲ繫キ之ラニ組ニ分テ指シ組ニ農夫四人
ヲ付シテ之ヲ用ウ茲ニ人耕牛耕ノ費額比例ヲ算スルニ
牛耕ノ人耕ヨリ倍ナキ殆ト羊價ナル可シ然ルニ九年一
月ノ始ヨリ耕牛中リンドルペストト稱スル一種ノ傳
染病ヲ養シ果々斃死スレ而有尙頭ニ及ヒ僅ニ二十六頭
ヲ存セリ因テ新出牛耕ヲ養シ現在ノ人カ馬力ヲ以テ僅
ニ耕鋤ノ業ヲ續クヲ得タリ全年ニ月魚洲ヨリ著殖用及
ヒ農田ノ馬ニ購求スル處ノ北馬ニ石五推分頭ノ中ヲ以
テ更ニ馬耕ニ代ヘレニ牛耕ニ比スレハ一倍ノ益アルヲ
以テ未用整ノ方決ツ馬耕ニ改ム〇全九年十一月清國

綿羊購求ノ為メ全國一派遣マシ屬官數名及ヒ以ヨンス
等羊各種毛千數百餘頭ヲ奉キテ帰朝ス〇全十年五月不
國產メリノ一種五石余頭及ヒ北牡馬七ヤテ教指頭ヲ斷
入ス此際藝尾ノ類ナシヲ以テ直ニ五束ノ北馬肥大強壯
ノモノヲ撰ヒ之ニ配シ漸次蕃息ノ目的ヲ立ツ〇全十一
年四月中蒙古地方ヨリ綿羊九石余頭ヲ購求ス〇全十二年四
一月中濠洲メリノ一羊千余頭ヲ購求ス〇全十二年四
月中獨ニ牧羊用業ノ月途アル各府縣ヨリ搜集スル所ノ
年從五石余名既ニ三年ノ學期ヲ閲シ卒業スルヲ以テ感
ヲ賜卿入〇綿羊ノ牧カ水ニ服スルト者獲者ノ管理權
並進スルトニ因リ備弁人ニ以テシテ給フ解キ全四年四月
中帰國セシムドリタルレ一サムハ既ニ十一年中契約ヲ

解テリ口合十三年一月廿日牧羊場及七取香種畜場ノ終限
別四ノ二石計五町五段迄取捨進歩ヲ合併シ更ニ下流
種畜場ト改稱ス場内ヲ分テ七区トス尋テ各區ノ名称ヲ
四区區地ノ字名ニ改メ第一ツ兩國區第二ツ山室區
第三ツ猪之頭區第四ツ金塚區第五ツ獅虎區第六ツ野ノ
頭區トシ更ニ取香一場ヲニ重塚區トス而レテ本廳ヲ兩
國區内高塚ニ移シ事業ノ後進ヲ謀リ牧丈百九拾人ヲ以
テ定員トシ牧畜耕種一功ノ事ニ使役シ益牛馬羊ノ良種
ヲ蕃息シ各府縣ノ請求ニ応シテ之ヲ貸與シ逐次全國ノ
種畜ヲ改良セシムルノ目途タリ現ニ牛馬牧種改良羊種
頭ヲ各府縣ニ貸與セリ。今年四月種畜ニ獸医ノ一科ヲ
置キ園場種畜ノ健康ヲ保全シ病畜ノ治療ヲ施行シ傍ラ

各府縣依復生ニ獸医ノ學術及實業ヲ教授ス。同年四月
事業ノ進歩ニ隨ヒ費用ヲ省リ及ソ山室區ヲ猪ノ頭區ニ
合流區ヲ兩國區ニ合併シ場内ヲ茲ラ五區トス。牧馬漸
次ニ蕃息シ其頭數牧場地積ニ起ルヲ以テ今年九月中蕃
殖北馬ノ中區家へ此シ飼養スル方法ヲ試ムルニ之ヲ情
願スル畜カカラス其養法モ未だ定キテ得テ頗ル肥大ノ果
況ヲ視ル。十三年六月ニ至リ北馬七拾余頭ヲ隔地ニ哺
養レバ一時之ヲ運納セシノ種畜ニ。曩ニ蒙古地方ヨリ購
取スル地ノ種羊ハ従来孱弱ニシテ年々多敷斃死ニ到ル
利潤ヲ得可ラザルヲ察シ今年一月廿日該羊七拾余頭ヲ屠
殺シ其肉ヲ製炭シテ罐藏スルノ方法ヲ試タリ是ニ由テ
之ヲ親レハ「メリノール」ヤウスガオン「羊」加キハ最モ我國

適意ノ種類トス。本年六月中各五畝地ノ段別ハ五百
 町歩ニシテ漸次藪菜ヲ播種シ而シテ其收穫ヲ以テ動物
 ノ飼料ニ充テントス。然レ此ノ如キハ漸次藪菜ノ量ヲ
 減シ遂ニ全ク牧草ノミニテ其分ナル畜養場ヲ施サバ
 バカラス是ニ於テカ益播種地ヲ擴張シ漸次牧草ヲ播種
 スルノ量具十リノ今年今月中諸畜ノ頭數ハ洋牛北牝ヲ
 合セテ六拾九頭洋種雜種内國種五頭馬ノ北牝ヲ合セ
 五頭余頭綿羊各種ヲ合セ五千六百頭十リ既ニ去年六
 月中北牝ノ内骨格不良ニシテ種馬ニ適セザル方及七番
 種用牝馬ノ内老衰セシモノヲ合セ七拾有今頭ヲ賣却セ
 リ
 明治八年本場開設以傳籍畜飼養ト耕種トニ種上ノ困難

ヲ承スト至ニ所為不投ノ精神ヲ以テ拮据尽力度際ニ経
 験ニ補其直ニヤヲ得テ遂ニ諸收穫大ニ増葉ノ類ヲ起過
 スルニ至ル如ク牛馬ノ價値年々逐テ騰貴シ將來益分
 ノ利潤ヲ得ルニ至ルハ疑ハ容レサレ所ナリ

明治十四年九月

下総 種畜場

凡例

一 此書ハ明治十四年第一回内閣勸業博覧會同設ニ際シ
 各府縣夫農ノ會ニ農談會ヲ開クノ末該會中收蓄所
 録寫志ノ者本場ニ来リ各事業ヲ歴覽スルニ方リ貨向
 應答ヲ筆記セシモノナリ

一 各事業ニ関シ各貨正々價向スルニ至ラハ錯雜繁勞ニ
 涉ルヲ以テ豫ノ場貨ヲシテ諮問及説明者ヲラシムト
 五ノ如シ

諮問答代

波多野 尹 政

應答者

辻 正 音

桂 弥 布

鳩 脩 治

新 山 壯 輔

田 辺 安 信

河 合 美 清

渡 邊 金 五 郎

一 此書散ラ緒言ヲ置カス岩山教義演説ノ書專ラ開墾牧
畜ノ改進ヲ謀ルキ旨ナルヲ以テ姑ク之ヲ緒言ニ換フ

一 書目ニ十四葉ヲ以テ附録トシ第一葉ニ第一等ノ須知ヲ分
ツ見附當時説耶ニ供セシモノニテ敢テ作品ヲ代用セ

モ入直リ筆記ト參觀スヘシ

明治十四年十月 農務局 下総種畜場

牧農問答筆記

牛部

説明者 桂 弘 市

(問) 牛種ヲ改良スル方法如何

(答) 牛種ヲ正殖ニシ血統ヲ明瞭ニスルヲ勉メ全族交媾
ヲ避ク可ニ先キ和牛ノ体格ニ相應シタル純粋種牝牛
ヲ選ミ之ヲ配合ス可シ最初和牛ニ純粋牝牛ヲ配合ス
牝牛ヲ得再ヒ他ノ純粋牝牛ヲ配シ順次斯ク配合ノ六
回メニ得タルモノハ則チ良種トナルナリ

(向) 洋牛ノ内最良ナル種類ハ幾許アリヤ

(答) 短角種「デボン」種「セルシ」種「和蘭種」ハ「フウルド」種「
」シ「シャ」種無角種等ナリ

(向) 牛種ノ部分如何

(香) 第一股ハヤ且美ナルヲ止トス 第二皮ハ軟膏ニシ且
ツ弾カアルヲ止トス 第三毛ハ柔軟ナルヲ止トス 第四
下腔ハ充分廣キヲ止トス 第五肋骨ハ穹状ヲ為シ脊髓
ヨリ廣ク垂下スルヲ止トス 第六脊ハ有ヨリ尾根ニ至
ル直真直ニシテ廣ク臀辺最ニ廣濶ナルヲ止トス 第七
前肢及ヒ後肢ノ膝ヨリ止ト骨ト共ニ巨大其下部ハ小
ナルヲ止トス

(向) 短角種ノ主要四向

(善) 短角種ノ人体格肥大ナルベキ性質ヲ有シ且ツ多量ノ乳
汁ヲ出シ乳肉兼用ニ最ニ多量ノ乳汁ヲ出スモノハ一
日ニ産ト余短角種ノ價格各牛種中第一等ニ位ス (第一
圖 第二圖) 有ヨ

(向) 「ラボン」種ノ主要如何

「ラボン」種ハカ後牛トシテ甚々之ヲ貴重シ且ツ良質美
味ノ乳汁ヲ出ス「多」最ニ多量ヲ出スモノハ一月ハ
外餘(第三圖) 有ヨ

(向) 「セルシ」種ノ主要如何

(善) 「セルシ」種ハ最ニ良質ノ乳汁ヲ出スモノナリ故ニ
ニ指頭ノ乳牛ヲ置テ製乳可ニハニ三頭ノ「セルシ」種
乳牛ヲ置テ「肝栗」ナリ其乳汁ヲ他乳汁ニ混合セラハ
テ牛酪ヲ製スルハ其牛酪ニ頗ル潤澤アリトス最ニ
多量ヲ出スモノハ一日七外餘(第四圖) 有ヨ

(向) 和蘭種ノ主要如何

(善) 和蘭種ハ最ニ多量ノ乳汁ヲ出ス故ニ之ヲ貴重ス其

ノ最ニ多量ヲ出スルハ一日産斗ニ外余乳量短角種
ノ上ニ位ス

向(ハリワウルド)種ノ主要如何

向(ハリワウルド)種ハ最良ノ内用牛トス

向(エールシヤール)種ノ主要如何

向(エールシヤール)種ハ乳用牛トシテ最ニ之ヲ貴重ス共
最ニ多量ヲ出スルハ一日産斗餘

向(無角種)ノ主要如何

向(無角種)ノ肉用及耕作用ニ可ラス

向(無角種)品及ヒ一日産斗ニ乳量如何

向(破碎燕麥、破碎麥、破碎豆、粍黍、破碎大豆、破碎

大豆、亞麻仁、胡麻油餅、燕麥、甘藷、馬鈴薯、胡蘿蔔、苜蓿、乾草

青草等ナリ

一日産斗ニ所ノ分量九ノ如シ

牝牛冬飼料一月分概畧

年数	四歳	三歳	二歳	一歳	六ヶ月
穀	四升	四升	三升	二升	二升
碎穀	三升	三升	二升	一升	一升
碎豆	三升	二升	一升	一升	一升
菜根	二貫目	二貫目	一貫目	一貫目	一貫目
干草	二貫目	二貫目	一貫目	一貫目	一貫目
塩	拾六匁	拾六匁	拾六匁	拾六匁	拾六匁
油餅					三合

牝牛夏飼料

年数	四歳	三歳	二歳	一歳	六ヶ月
穀	三升	三升	二升	一升	一升
碎穀	二升	二升	一升	一升	一升
碎豆	二升	二升	一升	一升	一升
乾草	一貫目	一貫目	一貫目	一貫目	一貫目
菜根	一貫目	一貫目	一貫目	一貫目	一貫目
塩	拾六匁	拾六匁	拾六匁	拾六匁	拾六匁
油餅					三合

牛齡	一月	二月	三月	四月
六月	一月	二月	三月	四月
七月	一月	二月	三月	四月
八月	一月	二月	三月	四月
九月	一月	二月	三月	四月
十月	一月	二月	三月	四月
十一月	一月	二月	三月	四月
十二月	一月	二月	三月	四月

牝牛冬飼料

牛齡	一月	二月	三月	四月
六月	二升	三升	四升	五升
七月	二升	三升	四升	五升
八月	二升	三升	四升	五升
九月	二升	三升	四升	五升
十月	二升	三升	四升	五升
十一月	二升	三升	四升	五升
十二月	二升	三升	四升	五升

牝牛夏飼料

牛齡	一月	二月	三月	四月
六月	二升	三升	四升	五升
七月	二升	三升	四升	五升
八月	二升	三升	四升	五升
九月	二升	三升	四升	五升
十月	二升	三升	四升	五升
十一月	二升	三升	四升	五升
十二月	二升	三升	四升	五升

前述ノ如ク定ムルト虫凡時々穀類及菜根類ヲ交換増減シ換フ

(向) 放牧ノ心得如何

(冬) 放牧ハ四季トモ午前ヨリ午後ニ至ル迄モ冬期ハ雪霜溶解セシ後放牧シ午後四時頃入舎セシメ夏期ハ早朝放牧シ午後七時頃入舎セシム放牧場中ニ日光ヲ遮キル

ヘキ樹蔭十ノ内ハ午前九時頃ヨリ午後四時頃迄畜舎
ニ入レ炎暑ヲ避リ安息セシム入舎中ハ四面ノ窓戸ヲ
開キ空気を流通ニ最モ注意スベシ又烈風烈寒降雨等
ノ時ハ放牧スベカラズ

(向)和洋雜種ノ名称如何

(答)外國種純粋短角牛ヲ以テ和牛ニ配合シ初回ニ得タル
ヲ二分ノ一昂十五分雜種第二回ニ得タルヲ四分ノ三
昂十七分五厘雜種第三回ニ得タルヲ八分ノ七雜種四
回ニ得タルヲ十六分ノ十五雜種第五回目六回目ニ至
リ改良種ト称ス雜種ヲ以テ改良種ニ變ユル目途ハ骨
格ヲ善良ニシ乳量ヲ増シ或ハ乳質ヲ變スル為ナリ

(向)分娩前後ノ取扱如何

(答)分娩前後他ノ牝牛ニ混セスシテ他ノ産場ニ放ツベシ
分娩前至シ乳房膨脹スレハ炊衝ヲ禁シ且膿ヲ釀スノ
恐アルヲ以テ初期ニ最モ注意スベシ分娩後一週日尚
ハ冷物ヲ喫フベカラズ二週尚ヲ経ラ母子トモ牛舎周
辺ノ庭端ニ放テ以テ徐々ニ運動セシムベシ

(向)交尾前牝牛ノ飼料ヲ増減スルコトアリヤ

(答)牝牛肥瘠ノ状態ニ由リ飼料ヲ増減シテ予フ

(向)交尾ニ臨ミ牝牛ノ肥スヲ好ムヤ否ヤ

(答)肥大ヲ好ム如何トナレハ肥大牛ハ産卵シ難シ故ニ

肥大牛ハ通常減食シテ交尾セシムベキモノトス

(向)第一牝牛ハ骨格善良ト云ルモ色悪ク第二ハ骨格健全
ナラザレバ毛色善キハ孰シテ以テ種牛ト定ムルヤ

(善) 老 愈 更 シト 骨 格 ノ 完 全 ナルヲ 以テ 種 牛ト 為ナリ

(同) 交 尾 ノ 方 法 ニ 種々 アルヤ

(善) 交 尾 法 ニ 二 種 アリ 一ハ 牝 牝 ヲ 掌 尾 場ニ 令 牧シ 牝 牝ノ

至 情ニ 任セテ 交 尾セシメ 一ハ 人 手ヲ 以テ 交 尾セシメ

就 中 牝 牝 ヲ 令 牧シ 交 尾セシムルヲ 最ニ 良 法トス

(同) 腹 胎 ノ 徵 候 ハ 如 何シテ 知シヘキヤ

(善) 牝 牛 ノ 牝 不 牝 ヲ 察 知スル 方 法 種々 アリ 度 胎 味々 久シ

カ ラ サル 時 ハ 察 易ニ 其 胎 仔ノ 有 無ヲ 知 得シ 難シ 一 回

交 尾セシ 牝 牛 數 月 春 播 莖 動セザルバ 受 胎シタルト 知

ルヘシ 又ハ 牝 牛 冷 水ヲ 飲メバ 脇 部ニ 當リ 一 種ノ 播 莖

ヲ 見ル 法 アレド 之ヲ 以テ 察スル 甚 難シ 又ハ 人 牝 牛 分 挽

前ハ 陰 門ヨリ 蛋 白 状ノ 液ヲ 排 泄ス 又 臨 産ノ 期 既ニ 三

周 々ニ 通シバ 分 挽ノ 徵 候 頗ル 到 達ス 陰 部ト 乳 房トノ

(同) 野 飼ト 舎 飼トハ 何 種ニシテ 成 長ノ 異 日 如 何

(善) 頗ル 異 同アリ 舎 飼ノ モノハ 常ニ 滋 養 物ヲ 飲 食シ 且 以

寒 暑ノ 為ニ 害ヲ 受ケルコトガ 甚 爲ナニ 成 長ニ 速

ナリ

(同) 牝 牛 初マテ ノ 交 尾ハ 何 歳ヲ 以テ 適 當トスルヤ

(善) 健 康 善 良ナル 仔 牛ヲ 得 ント 欲 スシハ 二 歳ニシテ 交 尾

セシムベシ 乳 用 牛トスベキモノハ 十 八 ヲ 月ヲ 経テ 交

尾セシムルモ 妨ナシ 其 牝ノ 体 格ニ 相 應シタリ 牝 牛ヲ

以テ 交 尾セシムルヲ 良トス

(同) 種 牝 牛ヲ 用ケルハ 何 歳ヨリ スルヤ

(答)種牡牛トスベキモノハ滿ニ歳半以上ヲ可リス牡牛ハ
強弱及ヒ年齡ニ從テ交尾及教ニ異ナリト爲ル牝牛
ニ歳半乃至三歳迄ハ一ケ年間ニ十五頭或ハ三拾五頭
四歳乃至六歳迄ハ四拾頭或ハ五拾頭又七歳以上ニ至
レバ三拾頭ヲ超處セザルヲ可リス

(問)交尾ノ季節ハ何月頃ナリヤ

(答)交尾ノ季節ハ四月頃ヲ以テ好季トス

(問)再三交尾スルト雖凡受胎セザル片ハ他ニ交尾ノ方法
アルヤ

(答)ニ三回配合ニ受胎セザル片ハ或ハ減食ニ或ハ牡牛ヲ
変換シ又ハ爪之ノ変リタル地方ニ移スルニ斯クシテ
尚モ受胎セザルモノハ屠牛ニ供スルノ外ナシ

(問)舎飼牝牛交尾ノ後注意ノ方法アリヤ

(答)交尾アルハ直ニ牝牛ヲ他牝牛ノ見ヘザル舎中ニ入レ
母息セシメ數時間更ニ飲食ヲ與フベアラズ

(問)種牝牛及ヒ牝牛凡何歳迄使用シ得ルヤ

(答)種牝牛ハ概ネ十歳迄使用シ牝牛ハ拾四歳迄使用スルヲ
得ベシ

(問)牝牛春情發動ノ時間ハ何時頃程ナリヤ

(答)通常ニ二十四時乃至三拾六時間ナリ

(問)舎飼牝牛分産ノ後何日頃ヲ經テ交尾ノ期處當ナリヤ

(答)分産後三十日ヲ經過シ春情發動スル時ハ交尾セシム
ベシ難産後ハ六十日ヲ經ザルハ交尾セシム可ナラバ

(問)牝牛ハ年齢ニヨリラ名称ヲ異ニスルヤ

(答) 牝ハ哺乳スル間ツ母ヲ仔牛ト云ヒ種牛ニ用ヰル間
ラ種牛ト云ヒ種牛ニ適用スルヨリ九歳迄ヲ成下牛ト
云ヒ十歳以上ツ老牛ト云フ牝ハ哺乳スル間ラ仔牛ト
云ヒ離乳ヨリ分晩スル迄ヲ種牛ト稱ス分晩後ヨリ
ニ歳ニシテ分 晩スルモラヤリ九歳迄ヲ成下牛ト稱ス十歳以上ツ老牛
ト稱スルヤリ

(問) 仔牛離乳スルト及ヒ種牛取扱ノ概畧如何

(答) 先ハ種牛トスヘキモノハ六ヶ月間哺乳セシメ通常仔
牛ハ三四ヶ月ニシテ離乳前ヨリ藪菜等ヲ子へ漸々乳
ヲ離レシムルツ可トス離乳後ハ緩和ノ食物及油餅等
ヲ與フ可シ仔牛及種牛取扱ハ飼養者ノ取扱ニ依リ性
質ヲ変ス故ニ之ヲ懸念ニス可シ又仔牛ヲ廣部ニ放牧

スレバ其成長ニ障害アリトス

(問) 当地ノ草質ニシテ四時飼牧ニトハ一頭ニ付何町歩
ノ地積ヲ要スルヤ

(答) 一頭ニ付概テ四五町歩ヲ要ス牧場ヲ区別シ轉換法ヲ
施スルハ最モ可トス但シ樹蔭アリテ草又

(問) 蕃殖牛及ヒ乳牛舎建築ノ異同如何

(答) 牛舎ハ都ラ南向ナル高燥ノ位置ヲ撰ビ建築スベシ大
氣流通ヲ便ニスル為メ窓ヲ南向自五丁ルヲ要ス種
親ニヨリ異ナルナレ

(問) 他所ヨリ牛ヲ牽入ルル季節如何

(答) 四五月頃ヲ以テ可トス成ルヘク種牛ヲ購求スベシ成
下牛ヲ牽入ルルハ其管理極メテ困難ナリ輸入ノ初年

ニ斃死スルモノ多トス

(同)牛ノ旅行心得方及ヒ一日幾里ヨ歩行セシムルヤ

(考)牛ヲ旅行セシムルニハ豫メ牽運動ヲイシ足力ヲ健ニ

シテ後旅行セシムヘシ概ネ一日五六里トス磨ヘハ於

七里程ヲ旅行セシメシト欲シハ初日ハ五里翌日ハ六

里其翌日ハ亦令シ夏日ハ炎暑ヲ避ケ朝暮ニ牽キ冬日

ハ寒暑ヲ避クル為メ日中ニ牽リ可シ道中ニテ時々休

息セシメ夏日ハ勉テ樹蔭等ニ傍ラテ可トス根宿スシ

ハ直ニ蹄ヲ洗滌シ初テ飼料ヲ與フ可シ

(同)牛牽入後ノ取扱如何

(考)牽入後臭水ニ浸スル迄ハ極テ注意セザルベカラズ

第一食物ヲ撰ヒ勉テ緩和ノ食物ヲ与ヘ毎日時間ヲ定

ニ隨動セシメ青草紫茂ノ類ハ殊ニ注意シ漸ク青草ニ

就カシムベシ

(同)毎半分晩セシメテ可ナルヤ

(考)平素飼養ノ良法ヲ得シバ毎半分晩セシムルニ敢テ妨

ケナレトス

牛病類

説明者 新山仕輔

(同)流産ノ原因如何

(考)流産ハ犬猫豚ニハ稀シニシテ羊馬ニ多ク殊ニ牛ニ於

テ屢々認ムル如ク者トス抑モ流産スルノ原因ハ甚々

多ト云々之ヲ大別シテニ種トス曰ク外因曰ク内因是

ナリ外因ハ第一大元ノ变换假令ハ極寒極暑大元過度

、濕燥、霖雨、不霧、濕氣ヲ含メシ、熱凡及ヒ沼澤、瓦斯ヲ含
有入ル、空氣ノ物ニ芽ニ、飲食物及全ハ、墮胎、萊、命々、表、取
芸香、蔘、昆、那、等、シ、食物ニ混レ、或ハ誤ラ、之ヲ、服セシメ、或
ハ故意ニ之ヲ、投、棄スルヨリ、流產ヲ来ス、又々峻下劑ヲ
過度ニ投、與シ、霜雪ヲ被ル、食物ヲ食シ、寒水、氷水ノ多量
ヲ、嚙下スル等ハ、皆ナ、能リ、流產ヲ来ス、因ナリ、或ハ滋
養ニ乏シク、加之、消化シ、難キ、食物ハ、消化機ヲ、閉塞シ、為
ニ、流產ヲ来入、取ハ、泥、滓ニ、汚レ、或ハ、塵埃ヲ、投、ルカ、或ハ
ハ、微、花ヲ、生、セ、タル、食物ヲ、食、フルモ、亦、然リ、又、シ、滋、養、分
過、多ニ、ノ、興奮性アル、食物ハ、多、血、症ヲ、来、シ、以、テ、子、宮、元
血、脈、壅、滯、離、毒ヲ、誘、發スルヨリ、ス、芽ニ、劇シキ、劣、力、昂、々
疾、走、飛、躍、過、度ノ、勞、役、等、胎、固ノ、一ナリ、此、レ、以、テ、靜、止シ、テ

ハ、レ、モ、動作セザル、片ハ、過度ノ、勞、動ト、合、シ、テ、胎、牛ニ、害
アリ、故ニ、久、シリ、靜、止セシモ、ノ、ヲ、レ、テ、俄、カニ、腹、後、セ、シ
ム、ル、片ハ、直ニ、流產ス、其他、轉、倒、滑、却、腹、部ノ、挫、傷、及、ヒ、已
孕ス、ル、モ、ノ、ヲ、杜、ニ、委、子、陽、萎、ノ、子、宮、頸ヲ、衝、突ス、ル、等、悉
ク、流產ス、芽、四、器、械、的、原、由、昂、々、動、物、及、ニ、相、蹴、擊ス、ル、ヨ
リ、腹、部ヲ、衝、突、或ハ、御、者ノ、之ヲ、打、擲シ、或ハ、外、科、手、術、假
令ハ、刺、給、去、勢、術、ノ、如キ、ヨリ、原、因、ス、芽、五、精、神、感、動シ、テ
恐、怖、驚、怯、憤、怒シ、或ハ、電、光ヲ、見、ル、片ハ、流產ス、又、五、官、ノ
感、動、殊ニ、臭、氣ヲ、嗅、ク、ヨ、リ、ス、レ、等、之、レ、ナリ
其、内、因、ト、シ、テ、入、可、キ、者ハ、第、一、母、體ニ、屬、ス、ル、原、因ニ、シ、テ
動物ノ、稟、賦、体、質、或、体、力ノ、強、弱、肥、瘦ノ、如シ、昂、々、水、肌、質
ノ、動、物、貧、血ノ、モ、ノ、疲、勞、セ、ル、モ、ノ、ハ、流產ヲ、誘、発ス、レ、ニ、

トス然レハ肥満多血ノ動物ニ亦然リトス蓋レ此等ノ
動物ニ有リ身ハ脂肪ノ膜腹并ニ皮下ニ蓄積スルヲ以
テ血行ヲ壅止レ胎児充分ニ血液ヲ受クル能ハサルヲ
以テノ故ナリ又チ著レキ原因ナリテ流産スルヲア
リ是レ動物ノ素因ニアリ其他妊牛ヲ侵入ノ諸症假令
ハ不消化軟脹急性ノ腸炎等凡テ腹痛ヲ發シ移ルセル
運動ヲ致入病ハ流産ノ原因ナリモノナリ又急性ノ
胸膜炎肺炎気管枝炎ノ如キ劇シキ咳嗽ヲ起ス諸病モ
亦チ流産ノ一原因トス其他子宮炎ノ如キハ母々稀ナ
レハ其原因ノ一トス右諸病ノ外母々著レキ原因ナリ
ルモノハ傳染諸病ナリ第一ハ父体ニ屬スル原因ニシ
テ甚チ著シカラズトモ大抵不妊形不適宜ノ此等ヲ考

尾セシムルニ由ル母々重大ナル此ハ此ヲ疲勞セシメ
衰弱セル此ハ胎児發育ヲ阻スル能ハス或ハ孕尾度ヲ
過シタル此ハ墮胎尾セシムル此ハ墮胎ノ易シ第三ハ胎
児ニ屬スル原因ニメ外傷ヲ感動シ母体ノ疾病ヲ傳
スルヨリ流産スルモノアリ

(四) 管理法不良ナレハ以テ疾病ヲ養スルヲアリヤ

(五) 然リ疾病ノ種類多アリテ其原因固一ナラズリ至ニ多
クハ管理法ノ良否ニ依テ之ヲ豫防シ或ハ之ヲ救セシ
ムルニ足ル就中營養法及ビ衛生法ノ如何ヲ以テ最ト
ス茲ニ其理ヲ畧述セシ

營養分欠乏ノ食品

滋養欠乏ノ食ヲ以テ動物ヲ飼養スルハ終ニ虚弱ニ

臨り為ニ疾病ヲ生スルノ其例少ナカバ假令ハ早魁リ
陰草木ニ灌漑セザレバ終ニ枯凋スルカ如ク動物トモ
只亦ト地リ然ラバ管理者タルモ、謹慎シテ動物食量
ノ如何ニ注意セザレバ其健康ヲ保持スル能ハス或ハ
過量ノ為メニ消化機ヲ倦怠セシムルニ至ル

悪性食品

連日霖雨セシ後糞或ハ草ヲ收納シ之ヲ以テ養養スル
片ハ虫ニ尋麻羅卵ノ如ク皮膚病ヲ生ス其理タトマ糞
草含有スルノ窒素物ハ水ニ溶リヘキ物ナルニ依リ雨
水ノ為ニ之ヲ洗除セウシ全ク滋養分ヲ失シ加之撒陳
妻性ヲ有ス可トナリ亦ト洪水ノ為メニ侵襲セラレテ
ル牧場或ハ砂泥ニ依テ覆ハル、牧場等ニ糞取スル片

ハ為メニ劇性赤痢或ハ腹炊衝ヲ起シ老篤ニ至ラシム
ルヲ少ナカテス

假ニ食品ヲ變スルノ事

食物ノ消化及ヒ同和作用ノ宜シカラサルハ大ニ疾病
ノ現致ヲ促スモノナリ故ニ假然劣食ヨリ美食或ハ美
食ヨリ悪食ニ變更スル片ハ五ニ種々ノ消化機病曠生
ス是レ其食物ノ胃中及ヒ腸中ニ停滞スルヲ久シク為
メニ胃中ノ濕結及ヒ体温ニ依テ化學的分解ヲ生シ氣
腹痛等ヲ生スニ至ル此等ハ牛羊ニ於テ屢々見ル所ナ
リ

換氣法

畜舎中ハ必ス空氣ノ流通ヲ好クシ安シテ惡臭ナカラ

シム可し差し換氣法不充分ナルハ家畜ノ呼吸及ヒ皮膚等ヨリ蒸散スル炭酸瓦斯其他毒質瓦斯等舎内ニ充満シ以テ全体ツ栄養入ヘキ血液ヲ改良スルノ酸素ニ乏シカラレノ終ニ敗血症等ヲ起スモノ鮮ナラス

(向)放牧場ノ良否病原トナルヤ

(答)然り放牧場ノ不良ナルカ為メ現養スルノ病症亦僅少ナラズ其最現察シ易キモノハ赤水病下痢ノ如キモノハ例之ハ沼沢地或ハ低地ニ放牧スルハ動物直チニ赤水病ニ罹リ終ニ死スルモノ屢々ナリ是レ放牧場ノ草多量ノ水分ヲ含有シ為メ滋養分ナル窒素物組成ノ位置ヲ擾乱シ以テ血球ヲ破碎スル特異ノ質ヲ有スルニ至ル故ニ其血球腎臟實質中ニアル血管ノ壁ヲ脱

出シ終ニ尿ニ混シ共ニ排泄シ赤水ノ頭ニ呈ス

(向)毛色ヲ撰ブハ重要ナルヤ

(答)然リ毛色ハ大ニ動物ノ体質ヲ示シ以テ諸病ノ誘因トナルヲ以テ之ヲ知ル復要トス可シ茲ニ其一例ヲ舉ゲルニ白色ノ動物ハ其性概テ軟弱ニシテ皮膚病昂ク疥癬皮膚腺病等ニ罹リ易ク遺傳病ナル瘰癧及ヒ里癌モ亦々白色ノ動物ニ於テ多ク發現スルモノリス

(向)病牛ハ如何ナル点ニ依テ診斷スルヤ

(答)動物ノ強弱ヲ識別スルハ其狀態及ヒ食欲ノ多寡ニ依テ推知スルノ容易ナリト云凡之ヲ確定セント欲セハ第一ニ粘膜ノ現狀ヲ察セサルベカラズ若シ口粘膜赤色ヲ呈スレハ消化機ノ充血症ヲ示シ凡ラ粘膜ノ帶黄

色ナシハ肝臓病タルヲ推知スルニ足ル而シテ粘膜毒
シリ血ノ敗ヲ示スルハ敗血病ヲ指示ス又四肢及ヒ
全体甚シク厥冷スルハ内臓ノ激衝症ニ侵襲セラル
ハリ知ル加之冷汗アルハ其病危篤ナルヲ徴ス其他
呼吸ノ緩急ニ依テ呼吸病ヲ推知スルヲ得ベシ
(内)牛ニ於テ認ケル通常ノ病ハ主トシテ何々ナルヤ其二
三ヲ向テ
(差)牛ニ於テ發スル普通ノ病症ハ鼓脹(一名)下痢乳房炎等
ナリ

鼓脹病ノ原因徴候及治療法
鼓脹病トハ第一胃脘ニ瓦斯ヲ醸生シテ異常ニ其容積
ヲ擴張スル一症ナリ

原因 鼓脹ノ原因タルヲ過食ニ在リ蓋シ過食ハ胃囊

ヲ飽更シテ胃ノ機能タル伸縮ノ作用ヲ失シ胃
中ニ貯ル食物ハ泡酵シテ瓦斯ヲ醸生スルナリ
殊ニ牧場ニアル牛ハ強雨ニ遭タルハ或ハ霜雪ヲ
帯ヒタル首霜等ヲ過食スルガ為メニ此病ヲ惹ス
又夕暈ヲニ食物ヲ變換シ及ヒ不消化ノ食物等ニ
キ病原トナリ

徴候 左側ノ腹部甚シク膨脹シ該ニキヲ示ラ之ヲ示

診スレハ恰モ鼓音ノ如ク及奪シ呼吸疾促及嘔止
ニ便秘ニ兼テ痲痛ノ徴候アリ後肢ヲ以テ下腹ヲ
打テ鼻端乾燥シ鼻孔開大呼吸困難之苦悶ノ状
ヲ呈ス

注意

病牛ヲ診察シテ此症タルヲ知ラハ速カニ適
当ノ治療法ヲ施ス可シ然ラバモハ胃腸益々膨脹
シテ横膈膜ヲ壓迫シ愈々呼吸ヲ困難ナラシメテ或
ハ窒息或ハ毒性ノ瓦斯ヲ血行ニ吸收シテ遂ニ死
ヲ来スニ至ル

治療法

矢ッ衝動健胃取瓜剖(重ル哥兒衝動劑炭酸亞
謨尼亞番水釐搦生姜等)ヲ投シ次ニ峻下劑(瀉利准
也豆油等)ヲ與ヘ爾テ灌腸法ヲ施ス可シ
若シ以上ノ方ヲ處シ癒治セザルバ「ガ」ヲ施用
シテ瓦斯ノ排出ヲ謀ルベシ然レモ若シ病久進シテ窒
息ノ恐アル片ハ速ニ第一胃穿孔術ヲ行フベシ

下痢ノ原因徴候及治療法

下痢ハ傷粘膜ノ変状或ハ敗血病ニ起因スル續発症ニ
シテ初期ニ於テハ輕症ノ如シトモ是ヲ治療法ヲ加ヘ
レバ遂ニ体質ノ異常ヲ誘発シテ死ヲ致スモノナリ

原因

不良ノ乾草、同化(類化)及ヒ吸収ノ不全、若クハ飲
料ニ過多ノ塩類或ハ腐敗有穢物ヲ含ムニ至リ又
牛疫或傳染性肋膜炎肺炎ノ如キ敗血病ノ徴候ト
ナリテ腹ハル、アリ斯ノ如キハ最モ難治ノ症
ナリ

徴候

下痢症ニ急慢ニ性アリ急性ノモノハ瀉水甚シ
リ其瀉スルモノハ灰白色ナルアリ黒色ナルアリ
又嘔ノ振停休ノ兆牛ナシバ乳汁ノ分泌減却シ沈
滯シテ漸ク腥臭ニ至リ慢性病ハ或ハ急性ノ結果

或ハ体質ノ異常ニ起因スルモノニシテ通常甚シ
リ衰弱シテ不随意偶々起シ尾ヲ痒ク立シ見ツ其
皮膚剥脱シ、眼球ハ陥没シテ四肢極ク厥冷、背部ヲ
撻ラ呈シ行步困難ニ墮ル、ニ至ル

〔治療法〕

腸ノ外物ヲ排出シ次ニ收斂劑ニ鎮靜劑ヲ加シ其
ヲ可シ(醱酸没食酸、亜片下散、白聖、卵白等)若シ食物
或ハ飲料ノ不良ニ歸スルハ其飲食ヲ改正ス可
シ若シ又下痢酸性ノ物質ニ起因スルハ亞カル加
里性ノ藥劑ヲ與フベシ或ハ瀉粉汁ニ亞片下散ヲ
加シ瀉^腸粉汁ヲ施ス可ナリ

乳房炎ノ原因徴候及治療法

乳房炎ハ乳腺ノ攸衛ニシテ乳房ノ表部ヲ侵スモノト
裏部ヲ侵スモノトノニ振アリ

〔原因〕

乳ニ炎症ヲ發ス寒冷ニ暴露シ乳房ヲシテ冷物ニ
接セシメテ或ハ搾乳者ノ不熟練ニシテ外傷ニ或ハ
搾乳ヲ怠リ乳汁ヲシテ乳腺ニ停滯セシムル等或
ハ内部ニ外傷ヲ受ケ為ニ交換神至機能ニ因リ
病發トナル

〔徴候〕

表部ノ炎症ニ於テハ皮膚赤色腫脹、疼痛ヲ發シ
後肢ヲ跛塞ス或ハ搾乳セントスルハ蹴ント欲シ
乳腺腺及ヒ内部ノ乳腺攸衛ニテ腫脹、疼痛、熱等
ヲ發ス深部ノ炎症ニ在テハ汎発徴候尋々呼吸

患取擣疫教、沈憂鼻端乾燥、角熱ヲ帯フル表部ノ微候ニ均シ

〔治療法〕

先ツ咬下刺ノ多量ヲ投シ以ニ乳房ニ濕蓋ヲ施シ而シテ患部ニ葎炭越致斯ヲ塗布シ膏ニ能ク導乳管ヲ用井テ搾乳スベシ否ヲサレバ炎部ニ乳汁停溜シ凝固シテ益々炎症ヲ増スニ至ル或ハ唇々温韃布ヲ貼シ若シ熱性ノ微アル中ハ双蘭菊下坂ヲ咬ハ既ニ充分化膿スルハ直ニ切斷ス可シ慢性症ニ於テハ沃醇軟膏或ハ水銀膏ヲ貼シ内服ニ下劑ヲ投シ或ハ沃度加里ヲ咬ハ而シテ壞疽ヲ生スレハ切斷スベシ

〔向〕最モ恐ルヘキ傳染病ハ何ナルヤ

〔答〕傳染病夥多アリト等凡其最モ猛烈ナルモノヲ挙ケレ

バ牛疫傳染病肋膜炎肺炎口足病トス

牛疫

牛疫ハ亞細亞地方ノ原發病ナレ凡本邦ニ於テ自發スルモノニ非ズ其病性ハ熱症傳染病ニシテ主トシテ気管及ヒ消化機粒膜ヲ侵シ牛種ニ突現シ他ノ又易ク傳染スル者トス

原因

本邦ニ於テハ原發スルモノニアラバ亞細亞地方或ハ歐洲地方ヨリ其種毒ヲ輸入スルニ因ス

徴候

此病ニ罹ルヤ体温昇騰シ齒齦ニ帶緑赤線ヲ顯シ眼ヨリ水液ヲ漏出ス是レ病症ノ元進スルニ從テ粘液質ニ変シ終ニ膿ニ變々入口ニ水胞ヲ發

シ 血液ヲ流出シ頭ヲ垂シテ疲倦ノ状ヲ呈ス而シテ
臍部及臍部ノ筋肉抽搐シ赤痢ノ徴ヲ異ニシテ終
ニ斃死ス

豫防法

牛疫ハ不治症ナルヲ以テ之ヲ治療スルヨリ
モ寧ロ他獣ノ傳染ヲ豫防スルヲ以テ須要ナリト
ス然ラサレハ毛頭ノ為ニ數万頭ヲ失スルニ至
ル故ニ牛疫ト診断スルヤ直ニ之ヲ撲殺シテ入
以シノ塚坑ニ埋メ舎内ヲ洗滌シ石灰水ヲ撒布
シ後亜硫酸重塩ヲ行フヘシ然レバ若シ近國ニ
於テ流行スルハ專ラ舎内衛生法ニ注意シ石灰
酸水ヲ撒布シ日々ニ三四回亜硫酸重塩ヲ行ヒ奈
何地方ノ動物及干草稿等類ヲ動物ニ接觸スヘキ

ノ 物品ヲ又シテ輸入スベカラズ壁一人リ其
地方ヨリ来ルヲ禁ゼザルベカラズ

傳染性肋膜炎肺炎

傳染性肋膜炎肺炎ナルモノハ牛種ニ特異ノ病症ニ
其病名ヲ指示スルカ如ク肺臓及ヒ肋膜炎侵襲ス

原因

原因ニ付テハ諸説紛々トメ未ク一定アラハトモ
此為クハ動物ヲ肥大ナラシムルト過急ニシテ過
量飲乳シ酸溼ナル舎内ニ繁滞セシムル等其第四
ノ主因ナラシニ其他劣質ノ食品及ヒ食品ノ急換等
其原突ハ傳染症ノ存在ニ依ルモノ夥多ナリ

徴候

脈搏疾數四肢厥冷シ体温昇騰シ寒顫ヲ呈ス而
シテ起立シテ稀シク臥寐スルヲアリトモ此暫時

ニシテ再び起立ス呼吸促迫時気息臭ヲ帯臭孔膨
大ス其病症ニ進スルニ至リテハ呼吸毎ニ喘鳴ヲ
發シ甚シク咳嗽スルニ至ル其咳嗽タルヤ實ニ動
物ヲヒテ若罔ニ堪ヤラシムルノ状ヲ呈ス

口足病

口足病ハ發疹性傳染病ニシテ皮膚及ヒ粘膜ヲ侵襲スル
モノニシテ牛羊山羊及ヒ豚ニ傳染スルノ容易ナリトス
種ヲ人馬犬及ヒ家畜ニ傳染スルノ容易ナリトス
其確徴トスルノ点ハ口粘膜及ヒ蹄間ニ水泡ヲ生
ズ是レ口足病ノ名稱ヲ付スル所以ナリ然レハ兩
部心ハシモ左時ニ侵襲セラルモノニアラズ或
ハ動物ニ於テハ口粘膜ニ止ルモノアリ或ハ蹄間

ノニ發生スルモノアリ又タ仔獸ノ如クニ至テハ
喉頭咽頭胃及腸ヲ侵スモノトス

原因

變性シタル食品ヲ以テ動物ヲ養育シ泥水ヲ飲
ハ沼沢地ニ放牧シ或ハ似然土地ヲ遊牧スル等悉
ク該病發ノ因ナルハシ然レ其其現察多クハ傳染
毒ノ存在ニ依ルモノナリ

徴候

前述セシ如ク該病ノ確徴ハ水泡鼻粘膜及ヒ蹄
間等ニ發疹ス且發熱甚シク為メニ体温昇騰シ華
以寒腹計而四度乃至百七度ニ至ル

同)牛ニ於テ遺傳病ハ如何

答)牛ノ遺傳病ハ肺結核、另癆、癩癩等ノ如シ

肺結核ノ徴候

肺結核ハ其初起ニ於テハ通常著シキ徴候ナシ然レ
ハ急性ノモノニ至リテハ肺ノ嫩衝アルヲ以テ素熱
惡寒四肢痠痛食慾欠損体温増進等ノ徴ナリ

勞瘵ノ徴候

勞瘵ノ徴候ハ猶更鬱陶、体力衰弱、食慾減退、消化不利、
嘔吐アリ或ハ下利或ハ便秘シ咳嗽ヲ呈ス其体々ル
ヤ乾燥或ハ湿润ニシテ一定セズ呼吸短促、脈搏僅進
皮膚熱燥ス

癩病ノ徴候

此症ハ卒然發スル病ニシテ震慄ヲ生シ五官ノ機能
頻カニ廢止シ全身痠痛為メニ卒倒シ高木擾乱ノ匪
靡ヲ起シ四肢皴皸共ニ強直シ口唇ヲ動カシ泡沫ヲ

流シ知覺ヲ失シ眼目固定シテ惟モ驚クガ如シ腫子
散大シ靜脈緊張全身發汗筋肉時々痠痛スル等ノ徴
ヲ呈ス

由部 設明者 田邊 安信

(問)改良スル方法如何

(答)馬藉ヲ正確ニシ血統ヲ即細ニスルヲ始メ全族交配
ヲ避ケ可シ而シテ良善ナル純粋種牡ヲ撰ヒ之ヲ和
種ノ牝馬ニ配合ス可シ然レハ第一回ニ二分一雜種
即チ五分雜種ヲ得テ第二回ニ四分一ニ至リテ改良種トナ
重雜種斯ノ如クシテ第六回ニ至リテ改良種トナ

(問)馬ノ種類何種アリヤ

(答)其種類ハ三種アリ、乗用、乗車用、農用、等是ナリ

(問)如何ナル骨格ハ乗用ニ適スルヤ

(答)其骨格ハ凡テ種々体ノ長キヲ可ク入而シテ胸部ハ潤大ニシテ頤ハ餘リ長カラズ殆ト是ト其ト擡ケ居ルヲ可クハ前肢ハ下膊太クシテ次第直線ニ下方ニ細キヲ最可トハ後肢モ亦前肢ニ奇ニ短シク其股節近却シ彎曲角度ノ深キハ不可ナリト入蹄ハ各差出所ニ因テ差異アリト雖凡堅クシテ先沢アリ蹄裏ハ極テ深ク且ツ大ナルヲ可トス(第五圖)ヲ看ヨ

(問)如何ナル骨格ハ乗車用ニ適スルヤ

(答)乗車用ノ骨格ハ乗用ニ比スシテ縮太クシテ後肢ハ尤モ張カアルヲ適当トス(第六圖)ヲ看ヨ

(問)農用ニハ如何ナル骨格ヲ可トスルヤ

(答)農用ノ骨格ハ先ツ首頸太クシテ胸部潤大ナルヲ要ス且肋骨廣潤ニシテ前肢ノ上端ヨリ下端迄直線ニ太ク後肢モ亦前肢ニ均シトハ從テ腰臀ノ最ニ廣大ナルヲ可トス蹄ハ固リシテ蹄裏ハ深ク大ナルヲ適当トス又驪ト牝トハ牝馬ニ比シテ驪ヲ配シ得タシ一種ノ馬族アリ其骨格ハ頭大ニ目長ク軀幹短大ニシテ尾ハ馬ヨリ細リ且粗ナリ善リ農用ニ適ス(第七圖)ヲ看ヨ

(問)和洋雜種ノ効用及區別如何

(答)之レ和洋雜種ハ性質多ク總和ニシテ体格良善且強壯ナリ今之ヲ例挙スレバ農用、車用ニ使役スルトキハ極テカクテ能ク其使役ニ堪ヘ又乗用ノ如キハ免ク疾

肥入レバナリ故ニ之ヲ和種ニ比入レハ其効用著シキ
セノトナ

(向) 兼用洋種牝ノ食料如何

(答) 一日ノ科割麦莖麦合シテニ升莖ニ升五合乾草一貫
五月塩ニ夕水適量ナリ

但シ牝馬ハ割麦五合ヲ減入

(向) 洋種農用及采車用ノ飼料如何

(答) 一日ノ科割麦莖麦合テニ升五合莖ニ升五合乾草二貫
日塩ニ夕水適量ナリ

但シ牝馬ハ割麦五合ヲ減入

(向) 和種采用牝馬ノ飼料如何

(答) 一日ノ科割麦ニ升莖ニ升五合乾草一貫五月塩ニ夕

水適量ナリ

但農馬ト雖ハ平常ノ飼料ハ本條ニ依ル非常ノ使役ニ
際シラハ増量入可シ

(向) 駒ノ食料如何

(答) 離乳期ヨリ滿一歳ニ至ル迄ハ一日煮麦一升莖一升ヲ
與フ其他糠ニ合或ハ莖ニ合及ヒ塩ニ夕ヲ以テ湯ニ
攪和シ朝暮與フヘシ

(向) 蕃殖馬ハ四季ノ放牧時間如何

(答) 春季ハ午前九時ニ放牧シテ午後三時ニ牽入シ夏期ハ
午前六時ニ放牧シテ午後六時ニ牽入シ

但樹木サキ牧場ハ日中九ノ四時間入舎セシメ
期ハ午前七時放牧シ午後五時ニ入舎セシム冬期

ハ午前八時放牧ニ午後四時迄リ入牧場中ニハ必
ス清潔ナル飲水ヲ置ス但然凡霖雨ノ時ハ放牧セ
ザルナリ

(向)交尾前牡馬ノ飼料ヲ増減スルナリマ

(意)然リ牡馬ハ適宜肥大ナルヲ可リス故ニ交尾中ハ常食

ヨリ減養アル良好ノ食物ヲ資養スルモノトス

(向)交尾ニ臨ニ牝馬ノ肥大ヲ好ムマ

(否)交尾ニ臨ニラハ然リ肥大ナシテ強忌ス

(向)第一種馬ハ骨格善良ナルト虽モ毛色悪シク(馬ニモ毛色
ク人ノ好マザルモノナリ)

第二ハ骨格完全ナラガシモ毛色白キハ

亦モ青毛等(此モ青毛等ノ類ナリ)執シテ種畜ト定ムルヤ

(否)骨格善良ナルヲ種畜ト定ム

(向)交尾ノ仕方種カアルヤ

(否)牛ノ部ニ於テ誤卵スルモノト左シ

(向)懐胎ノ徴候ハ如何シテ知ルヤ

(答)交尾後春情変動セサルハ受胎ノ徴トス莫容解體靜

ニシテ次第ニ肥腹ヲ呈ハシ又ハ動作ニ因テ呼吸稍元

直シ七ハケ月目ニ至リ臍部膨脹シテ下腹ノ中央線ニ

ノ左右ニ分歧スルモ亦受胎ノ證トス

(向)懐胎中ノ注意如何

(答)懐胎中ハ尤モ危險ヲ避ルヲ專一トス故ニ他畜舎内ニ

雜居セシムルハ甚ク爲シ又不良ノ飼料便後ノ過度ト

ルハ大ニ害アリ然レモ適宜運動ハ欠クヘカラズ

(向)左種ニシテ種飼ト舎飼トハ成長ノ異ナルモノ歟

(答)牛ノ部ニ於テ誤耶スルカ如シ

(問)牝馬ノ交尾ハ何歳迄ヲ適當トスルヤ

(答)骨格良好ニシテ強壯ナルハ四歳ヨリ始メ五歳以上ニ

テモ可トス

(問)牝馬ハ何歳ヨリ何歳迄ヲ種用ニ供シ得ルヤ

(答)體格完全ニシテ強壯ナルハ四歳ヨリ種用ニ充ツ四歳

ニハ八歳ノ牝五歳ヨリ六歳迄ハ十歳七歳ヨリ九歳

迄ハ二十五歳乃至三才頭十歳以上ハ五頭以下ノ牝

ニ配入又馬ハ牛ニ及シ老齡ノ牝ヲシテ配合セシムル

ハ人能ク良好ノ駒ヲ得ルヲアリ

(問)再ニ交尾セシト雖氏受孕セサルハ更ニ牝ヲ變換シラ

リヤ

(答)再ニ交尾セシト雖氏受孕セサルハ更ニ牝ヲ變換シラ

配區セシメ又土地ヲ變換シテ之ヲ試ム可シ

(問)便後スル牝馬交尾ノ後注意ノ方法アリヤ

(答)交尾後一週間ヲ経過セサル片ハ便後ヲ禁ス譬へバ教

育ヲ強ルモ酷劇ノ使用ハ宜シカラズ

(問)牝馬春情發動ハ何日間ナルヤ

(答)春情ノ日數ハ九リ一週間トス然レモ三四日ヲ以テ

配合ノ期トス

(問)本邦ニ於テ往々毛卷ヲ嫌フ者アリ果シテ害アルヤ

(答)否

(問)分映後一週間ヲ経レバ交尾セシムルモ妨ナレトス然レ

尚分映後一週間ヲ経レバ交尾セシムルモ可ヤルヤ

氏三週向ヲ経過シ先分春情發動スルヲ候テ交尾入ル
ツルモ可トス

(問)駒ノ取扱方如何

(答)厩舎ノ清潔ハ勿論動物ノ全肥ヲ抗拒シ効テ稔柔慾萬
ニ取扱方ニ注意ス可シ

(問)分岐後母馬發ル、片ハ駒ハ如何ナル取扱ヲ為スヤ

(答)分岐後百日未滿ニシテ母馬發ル、片ハ牛乳ヲ以テ養
フマシ養レ牛乳無キ片ハ甘酒或ハ稀粥或ハ麥等ヲ以テ飼
養スルヲアリトモ全ク保存スルヲ稀ナリ又而日肉
ヲ経過シテ母死シタル片ハ例ヘ牛乳ヲ要セサルトモ
昔酒或ハ稀粥或ハ麥等ニテ飼養シ管理充分ナ
レバ多クハ生育スルモトトス

(問)馬ハ毎年分岐セシメテ可ナルヤ

(答)牛ニ全シ

(問)馬ノ截蹄法如何 説明者 渡辺金三郎

(答)截蹄法ハ舊来其素ニ從事スル者多シトモ其木々其素
ヲ知テ其術ヲ知ラザル者又少シトモ其術ヲ知ラザル者ハ馬
蹄ノ截切法ハ其使役セラルル馬ノ種類ニ由テ異シ
リ今其種類ヲ大別スルニ第一競馬用馬ニ是ノ用馬ニ
貨車用馬四蕃殖用馬五農馬用馬六ニ截切シテノ駒是ナ
リ茲レハ其法ヲ詳述スルヲ甚々困難ナリ是レ筆舌ノ
能ク尽ス所ニアラザレバナリ故ニ截蹄術ハ俗其業ニ
就テ其事實ヲ傳授セシムルヲ要ス最モ馬蹄ヲ截ルニ
ハ蹄文人勿論其他部トモ其多量ニ截去スベカラズ

未迄ハ不学ノ伯樂蹄ノ貴貨亦用ヲ知ラズシテ蹄履ヨ
リ出血スルニ至ル迄敷所スルヲ以テ最モ良ク思
リ喜々惑へし者ハ謂フヘシ其故如何トシバ健全動
物四蹄ノ健全ナルヲ以テ其躡脚ヲ支フルナリ今茲ニ
動物其体ヲ運轉セシムルニ當テ其力ノ集合スルハ蹄
蹄ノ表面ニアリナリ故ニ其体ノ重量ヲ支フル間ハ蹄
蹄ニ用張スレバ又蹄地ヲ離ルレバ收縮シテ以テ大ニ
其骨蓋ヲ保存スレナリ然ルニ故抑茂ニ過キ極薄ナル
片ハ其部ノ感覺鋭敏トナリ外物ニ觸レ或ハ硬地ヲ踏
ム片ハ收縮ヲ起シテ改行ヲ生シ蹄緊縮シ狭小トナリ
易リ加之肢ノ拳揚ヲ助クヘキ蹄ノ彈力ヲ失ヒ是レガ
為メ種々ノ蹄病ヲ誘引スルヲ屢々之レアリ故ニ若シ

馬蹄ヲ裁切マシト致セバ寧ロ少シク切ルヲ最モ良法
ト考フルナリ

附言

抑テ馬蹄ハ内外共ニ著シク突出彎曲シテ且知覺ナキ
角質ヲ備ヘ以テ感覺鋭敏ナル部ヲ包圍シ損傷及ヒ他
ノ外木害物ヲ防禦スルニアリ是レ比、防禦ハ天邊隨意
ニ保存シ動物各自ノ意ニ任セテ自在ナルヲ馬ニ於テ
最モ満足ナリト云凡ハ人ニ使役セリルハ、馬ハ蹄ニ自
己ノ体重ノミナラズ更ニ負重シ或ハ迅速ニ馳逐セラ
レ或ハ硬地石路ヲ區區セヤ心可カラズ今更ニ高陸ノ
地ニ放ツノ馬ハ或ハ原野ヲ去ル而里ノ遠キニ至ルニ
之ヲ為ニ蹄ヲ損害スルヲナリ又其馬或ハ挽馬如牛驢

地街道ヲ通過スル者ハ一日或ハ一二時ヲ経レバ蹄必
 ン裂ケ或ハ磨損シ為ニ嫩衝疼痛シ及ヒ跛行スルニ至
 ルナリ又然自在ナル馬ハ之ニ及レ良能ノ力能ク之ヲ
 維持シ隨テ減スレハ隨テ生シ其蹄常ニ整造タル形状
 ト性質トヲ保存スルナリ又造化ノ巧妙ニシテ各馬ニ
 適宜ノ蹄ヲ賦與シ若其住地ニ適セシム故ニ山或ハ硬
 地石地ニ在ル馬ハ自然堅固ナル蹄ヲ具シ湿润身位
 ニシテ雜草多キ地ニアル馬ハ大ニ軟タル蹄ヲ具
 スルカ如ク職務ニ使役スル馬ハ上ニ誤リ如ク磨滅ス
 ルノ増長ナルヨリ甚シク之ニ依テ跛等ヲ来スナリ馴
 レタル馬ハ多ク蹄ノ自然性質ヲ失スルカ故ニ愈々早
 リ跛等或ハ瘦ニ失シテ烈ク易ク或ハ軟ニ失シテ脆

ヲ譬ヘバ美麗ノ外線ト堅固ノ骨路ヲ有スル馬ト云凡
 斯ノ要用ナル器械ノ外線醜劣ナル者或ハ其変状有ル
 者ハ動物價値ヲ低下スル者ナリ如何ナレバ上等種類
 ト魚凡蹄部ニ些少ノ変状有ル時其外貌ニ依テ使役ニ
 供スルノ能ハズ且ツ其天地ノ大小ヲ多ク損入故ニ蹄
 ヲ切截スル條モ意ヲ用テテ切却センテテ要ス又硬地
 及ヒ石礫粗悪ノ地ニ於テ日々運動セシムル馬ハ假令
 其蹄質良美ナルトモ其真ニ損傷スルノ患アリ故ニ蹄
 鉄ヲ用テ其ノ磨滅損傷等ノ大害ヲ防禦スルナリ蹄鉄
 ハ蹄ノ表面ヲ鉄ニテ被フモノナリ

馬病類

説明者

新山江輔

(四) 流産ノ原因如何

答)牛ニ於テ説明スルニ合シ

同)僅理法不長ナルヨリ疾病ヲ發現スルヲアリ

答)牛ニ於テ説明スルニ合シ

同)牛ニ於テ撰フハ痲要ナリヤ

答)牛ニ於テ説明スルニ合シ

同)痲馬ハ何点ニ依テ診断スルヤ

答)牛ニ於テ説明スルニ合シ

同)馬ニ於テ通常認メル病ハ何々ナルヤ其ニニツ同フ

答)馬ニ普通ノ病ハ痲痛加答見下痢等ノ類ナリ

痲痛ノ原因徴候及ヒ其治療法

痲痛ニ性アリ痲瘳性及凡気痲是ナリ復々之ヲ分ラ

痲瘳性凡気性虚性痲痛ノニトス

痲瘳性痲痛ハ腸ニ刺衝物アリテ内腔ノ痲瘳ヲ起シ凡

気性ハ腸ニ瓦斯体醸生シテ痲瘳ヲ起シ虚性ハ腹腔機

官ノ異状例之ハ膀胱炎ノ如キヨリ誘発ス

原因)寒冷ニ暴露シ過食過飲シ或ハ粗悪ノ食物ヲ與

フル等原因トナル粗悪ノ食~~物~~物ハ充分ニ咀嚼

セスレテ胃ニ送り消化セサルカ為ノ腸ニ至リテ

刺衝ヲ起シ又風気性ニ於テハ腸ニ食物分解シテ

瓦斯体ヲ發生スルモノニシテ多クハ肝臟ノ異状

ヨリ誘発ス虚性ノモノハ尿ノ蓄積脱腸肝腎等

ノ結石等ヨリ誘発ス

徴候)患馬甚シク腹痛ヲ訴ヘ一起一臥烈シク苦悶寄

ヲ間歇シ前收ヲ以テ地上ヲ搔キ屢々腹部ヲ顧ミ

茶汗呼吸疾促便秘ニ下腹部ヲ壓スルモ更ニ

疼痛ヲ訴ヘス風気性ハ腹部異状ニ膨脹シ之ヲ打テハ大鼓ノ如キ及響ヲ覺ユ虚性ハ痙攣性ニ全シト虫氏能ク患馬ノ履歴ヲ要スヘシ

〔治療法〕

先ツ鎮靜衝動劑(硫酸亜的見硝酸亜的見亞化丁幾双鸞馬菊丁幾)ヲ投シ兼テ屢々灌腸法ヲ施シ或ハ四肢ニ的列並油ヲ塗擦シ下劑ヲ投ズルモ可ナリ

加谷兒ノ原因徴候及其治療法

〔原因〕

寒冷濕気殊ニ北風ニ暴露スレバ直ニ此病ヲ発ス氣候ノ變化換気法損生法カ不良等ヨリ加谷兒ヲ発スルモノナリ

加谷兒ハ輕症ノ如シト虫氏初期ニ注意シ治方ヲ

〔徴候〕

施サババ危篤ノ呼吸機諸病ヲ誘発スルニ至ル
呃逆鼻粘膜赤色ヲ呈シ乾燥シテ初メハ無色稀薄ノ液ヲ排出シ次ニ粘液ヲ漏出し漸々元進スルニ從テ帶黃色濃膿ノ膿ヲ排泄スルニ至ル而シテ熱氣ヲ帯ヒ咳嗽シ鬱憂ノ状ヲ呈ス

〔治療法〕

先ツ畜舎ヲ淨清シテ大気ノ流通ヲ良クシ患馬ニ衣布ヲ纏ヒ体ヲ温保シ吸入法ヲ施ス可シ若シ便秘スルキハ灌腸シ或ハ極テ緩和ノ下劑ヲ與ヘ驅熱劑劑(硝石)ヲ投シ勉テ根生法ニ注意シ体力ヲ強壯ニシ兼テ強壯劑ヲ與フ可シ

下劑ハ普通ノ牛病ニ述バタレ

〔問〕

最モ恐ルベキ傳染病ハ何ナルヤ

答「カランガイ」ス及ヒ「アワルシ」病等ナリ

「カランガイ」ス及ヒ「アワルシ」原因及ヒ徴候

此ニ病具侵部及ヒ外頸ニ至リテハ大ニ異ナルアリト
虽氏其性全ナルヲ以テ一病トシ茲ニ説明ス抑誤病
ハ馬種ニ特異ノ病症ニシテ皮膚層及ヒ気管粘膜炎
即チ潰瘍膿腫ヲ来シ加ルニ水脈管及ヒ水脈腺ノ破衝
ヲ帶フ然レ氏若シ鼻粘膜炎呼吸機粘膜炎及ヒ之ニ近接ス
ルノ水脈腺肺臟及ヒ其他ノ臟器侵襲セラルハ「カ
ランガイ」スノ名称ヲ下シ唯皮膚皮下結締織水脈管及
水脈^線止ルハ「アワルシ」ト称ス斯ク大異アリニテ
恰モ類似スル処ナキカ如シト虽氏「アワルシ」病ノ元
進シテ「カランガイ」スニ變性スルカ如ク亦「カランガイ」

「ス」モ他ノ健獸ニ傳染スルキハ「アワルシ」症ヲ現ス

原因 総テ衛生法ノ懈怠ハ該病ノ主ナル原因トス就

中換氣不良其他管理法ノ当ヲ得タルモノヲ以テ

最トス

徴候 「カランガイ」病ノ確徴ハ鼻孔ヨリ粘液ヲ漏出

シ鼻粘膜炎潰瘍ヲ来シ下顎水脈腺ノ腫脹ヲ来ス
ヲ以テス然レ氏内攻「カランガイ」ニ至リテハ未
タ之ヲ推知スルノ要巨アルヲ聞カズ唯死後剖シ
テ之ヲ識別スル他策ナシ

問 馬ニ於テ遺傳病トハ主トシテ何等ノ症ヲ指スヤ

答 馬ノ遺傳病其數多シト虽氏通常人ノ知ル処ノ者ハ月

盲瘰癧黒瘰癧關節骨痛ノ類ナリ

月膏ノ徵候

此症ハ危篤ノ病ニシテ眼ノ虚性充血ヨリ来スモノナ
リ其充血タルマ時々間歇シテ瘳スルヲ常トシ一眼或
ハ両眼ヲ侵シ遂ニ全ク視カヲ瘳スルニ至ル其結果ハ
白内障或ハ黒内障トナリテ終ル其徵候ハ虚性充血ヲ
生シ眼球間ニ滲漏液ヲ生シ為メニ其部ヲ壓迫シ以テ
眼瞼ノ腫起ヲ来ス結膜モ亦々充血シ角膜ハ遂ニ不
透明トナリ時トシテニ液ノ混濁シテ緑黄色ヲ呈スル
トアリ第ニ至レバ其液中ニ浮遊スル物質アリテ
瞳孔ヲ遮リ光彩膜充血シ水晶体モ亦々混濁ハ第ニ至
ニ至レバ其浮遊スル物質沈降シテ黄色ヲ呈ス是ヨリ

シテ緩解期ニ趨キ遂ニ平常ノ状態ニ復ス其経過ハ凡
ソ七日乃至二十一日間ナリ

瘰癧ノ徵候

瘰癧ハ組織ノ變更ヨリ来ル処ノ腫物ニシテ深ク潰爛
シ瘰ヲ生ス之ヲ切放スルモ尚ホ再發シテ治癒スルコ
トナリ終ニ死ヲ致スモノノ僅クナラズ其徵候一定セズト
雖氏概テ最初ハ小ナル冷腫局処ニ發シ唯脹大スルノ
ミニテ数月間別ニ變化スルコトナレ然レ氏日ヲ證ルニ
後ニ再び成長シ遂ニ瘰癧ニ陥ルモノトス凡テ此腫物
ハ不断膨大スル性アルカ故ニ近傍ノ諸機間ニ蔓延シ
テ其組織ヲ全ク變化スルニ至ル

黒瘰癧ノ徵候

黒癌ハ瘰癧ニ似タル病症ニシテ唯々黒色ヲ呈スルヲ
以テ異ナリトス此症ハ色素ノ鬱積ヨリ発スルモノニ
シテ多クハ白毛ノ馬ニ発ス此腫物モ亦々増大蔓延ス
ル者ニシテ頗ル危シ

關節骨痛

此骨痛ハ四肢諸部ノ關節ニ生スルモノニシテ殊ニ飛
節部ニ発スルヲ常トス其徵タル初ハ疼痛及ヒ跛行ヲ
生シ次ヲ腫脹ヲ起シ遂ニ骨痛ヲナス

擧丸割去術

但シ馬ノ擧丸ヲ割去ス

説明者 塙 脩 治

問 此施術ノ方法ハ如何

答 擧丸割去術ハ草ニ動物ノ生殖機ヲ断絶スルノ術ニメ

其方術ニ種々アリト虽氏就中簡易ニメ且ツ良好ノ結
果ヲ得ルハニアリ腐蝕榨断術烙鉄燒断術是ナリ然レ
氏此方法ニ於テモ其施術ノ拙劣ニ至テハ施術後屢危
險ヲ来ス故ニ快路ニ趣クテ難シ須ク注意スベシ

問 腐蝕榨断術ハ如何

答 此法ハ水製壓榨器ヲ以テ擧丸導引帶ヲ壓榨シ去ル術
ニメ其法式ハ先ツ一切ノ機具ヲ整置シ壓榨器溝内ニ
硫酸銅糊ヲ充填シ其一端ヲ細キ蠟引糸ニテ結環シ動
物ヲ倒臥シテ抑定シ左擧丸ヨリ始メ左手ヲ以テ充分
ニ掌握シ右手ヲ以テ刀ヲ把リ陰囊ノ三角形集胞織ヲ
前後直線ニ切断シ而シテ擧丸ヲ引出シ導引帶ヲ剥露
シ壓榨器ヲ以テ之ヲ扱ミ其先端ヲ割去術鑷子ニテ取

ト壓控シ充分ニ至レバ其壓控器ノ先端ヲ前全線ニテ
堅ク結環シ其糸端ヲ切リ而シテ尖利ノ刀ニテ導引帶ヲ切
リ鞣丸ヲ斷離スルニアリ如斯クフルト右鞣丸ニ於テ
天然リ手術既ニ了レバ創痕ヲ冷水ニテ清潔ニ洗滌セ
シム

問 烙鉄燒斷術ハ如何

答 此方治ニ鞣丸ヲ掌握シ陰囊ヲ切斷シ鞣丸ヲ引出ス
ハ腐蝕探斷術ニ同シ而シテ導引帶ヲ鉄製或ハ木製ノ壓
定器ニテ挾ミ烙鉄ヲ以テ其紐帶ヲ燒斷スヘシ然レバ
烙鉄ハ稍鈍キヲ可トス是レ血管ノ截痕粗糙ナルカ故
ニ血液容易ニ凝固シ以テ出血ノ憂ナカクシム

問 鞣丸割去セシ切用如何

答 鞣丸割去ノ切用タルマ情慾脱シ羣集雜居駆役ニ供スルモ
散ラ動搖ノ状ナク性質柔順トナリ且ツ少シモ物ニ
恐怖スルコトナク而シテ運役自由トナリテ勢力一般ニ
増進ス又タ孟益増大トナリテ食料ヲ減シ且ツ肥満ニ
易ク或ハ蕃殖ノ方法ニ至テハ惡種ノ遺族ヲ絶テ牛
豚ノ如キハ容易ニ肥満シテ忽テ脂肉ヲ増殖スルニア
リ

問 鞣丸割去ノ期節ハ如何

答 此期節ハ春秋ノ際ヲ最モ可トス此期節ハ氣候寒暖甚
シキ変異ナク瘡處ノ愈治モ速カニメ繼發危険ノ患ナ
カルベシ然レバ烈風霖雨ノ節ハ之ヲ施スコト勿シ

問 鞣丸ヲ割去スルキ年齡ハ如何

答 年齢ハ其希望ノ目的ニ依リテ一様ナラスト 蚤氏概ニ
幼年ヲ可トス 是レ動物生体ノ发育未タ至カラサルヨ
リ十分形体資質ヲ变换シ得ヘリ 手術モ容易ナレバナ
リ 牛ハ約ホ一歳前後ヲ最モ適齡トス 馬ニ於テハサリ
異ナリ 是レ目的使役ノ便ヲ以テ体格モ畧定マリ 精神
モ少ク养成スルニ至テ行フヲ可トス 故ニ二歳ヨリ四
歳ノ中ヲ可トス 何トナレバ馬ハ極テ幼歳ノ時施スル
ハ脂肪ニ富ミサレモ気質振興セザレバナリ

問 宰凡割去後癒治ノ経過如何

答 此手術ヲ施シテ癒治スルハ其巧拙ニ因テ一様ナラス
ト 蚤氏凡テ三週間乃至五週間ヲ経過ス 然レ氏手術ノ
拙ナルニ於テハ危険ノ疾病ヲ継發シ癒治困難ニシテ

経過モ甚タ差異アルナリ

羊ノ部

説明者 河合美清

一 綿羊

但現物ニ就キ説明ス

問 羊ハ如何ナル需用アルヤ

答 羊ノ重ナル需用タル肉ハ食膳ニ供シテ人体ノ健康ヲ
助ケ毛ハ衣類及ヒ敷物類家具類ニ用テ覆ヒ物又ハ旗
地等ノ織物トシ皮ハ書籍ノ表紙及ヒ手袋靴トナシ骨
角ハ工藝ニ用テ脂肪ハ石鹼又ハ蠟燭トナシ糞尿ハ農
家貴重ノ肥料トナシ就中糞ハ羊毛ヲ染ル前羊毛ヲ清
潔スルニ用テ殊ニ本綿及ヒ亞麻布ノ染料ニシテ用テ

問 種類ハ数多アリヤ

〔答〕種類ハ幾多アレ氏今歐米ニ飼養スル重ナル羊ハ短毛
羊ニシテメリノール中毛羊ニラサウスガオニ及ビソロツ
アレルガオニ長毛ニテリシマルシレスターコツガル
ト羊等ナレ氏当場ニテハメリノールサウスガオニニ
種ヲ飼養セリ〔第八圖〕〔第九圖〕〔第十圖〕ヲ看ヨ
〔問〕何故ニ当場ニテハメリノール及ビサウスガオニノミラ
飼養スルヤ

〔答〕メリノール及ビサウスガオニハ体質強健ニシテ能ク各
邦各地ノ風土ニ適スルヲ以テナリ

〔問〕種類ニ因テ体状異ナルヤ

〔答〕ワルクニト名クル羊種ノ如ク小キモノアリテ井ス
ウオター種ノ如キ碩羊アリメリノール種ノ如キ首角ノ

モノアリワルク種ノ如キ無角ノ者アリ又其毛ニモ
ワルクニエ「レスター」ノ如キ長ク粗キモノアリメリ
ノールノ如キ細ク美ナルモノアリ其毛色ニ至リテモ黒
白色等アリ

〔問〕需毛需肉羊ノ持別ナル種類アリヤ

〔答〕需肉羊ハ「サウスガオ」ニ黒面羊「テフ井ウツト」等ナリ需
毛羊ハ「ワルク」ニ「ゲ井スウオター」メリノール等ナリ

〔問〕壹頭ノ剪毛重量及ヒ毛長ハ幾何ナルヤ

〔答〕メリノール種ハ毛長ニ寸五分ニシテ毛量六百目ヨリ毫
貫目位ニ至ルコツウオールドワルク種ハ毛長ハ寸

内外ニシテ毛量モ貫目位ナリ

〔問〕短毛羊長毛羊ノ毛ハ各如何ナル絨布ニ製スルヤ

〔蓋〕短毛羊ハ「カー」ジングト各クル畧械ニ由テ婦人ノ外套
男子ノ上着肌着等（調着）ノ上等絨布ヲ製成シ長毛羊ハ「フ
ー」ミンガト各クル畧械ニ由テ家具類ニ用ユル織物裏
地類敷物等ヲ製成ス

〔向〕毛價一付ニ付幾何ナリヤ

〔蓋〕羊毛ノ價値ハ羊ノ種類ト製絨所ノ需好ニ由テ時々變
換スルモノユ一一定ノ價ナレト虽氏通例外國ヨリ輸入
入ノ「フ」メリノ山「剪」毛一付ニ付四拾錢「サウ」ス「グ」ラ「シ」
「ト」ス「タ」リ「リ」ン「コ」ル「シ」ノ「剪」毛ニテ三拾錢ナリ

〔向〕羊齡ハ何ニ由テ相知スルヤ

〔蓋〕羊ハ板齒ハ枚數齒廿四枚アリ而シテ下顎ニアル板齒ト
左右上下「凸」隆ニアル齒ト身ノ切痕ニ由テ羊齡ヲ相

〔蓋〕羊舎ハ高燥ノ地ニシテ北ニ樹木或ハ山崖ヲ帶ビ寒風
ヲ遮ギリ南ニ向ヒ前面開濶（開）ニシテ東南ノ方ニ幾許ノ
斜下アリテ自然水利アル場所ヲ撰テ建造スベシ其構
造法種々アリテ各牧者ノ便宜ニヨリテ造ルト虽氏通
例「シ」ノ如クニ造ルヲ善トス其故ハ南向ノ羊舎ナレ
バ西南ノ風当リ強キ故此形ニ造レバ大ニ風ヲ防ゲリ

〔向〕毛坪ニ何頭ノ割合ニテ羊舎ヲ建設スルヤ

〔蓋〕大抵毛坪ニ付三頭ノ割合トス縱令四五拾頭ノ小群ヲ
飼フモノニテモ初メヨリニ四百頭ヲ容ル、心得ニテ
建テ置テ可シ羊舎ノ前面ニ欄庭トテ羊ノ自由ニ運動
スル若干地積ノ空處ヲ欄庭ノ濶サハ引ニ定規ナ
クレ氏羊舎ノ幅ヨリモ前ヲ狭クセガル様ニ造ルベシ

而シテ其外面ニハ必ス藩籬又ハ土牆ヲ圍繞シテ野犬
狐狸ノ害ヲ防クベシ羊舎周圍ニハ草架ヲ設ケ下ニ食
槽ヲ附着シ且若干ノ水槽ト塩槽ヲ排置ス

問 冬季ノ管理ニ於テハ如何ナルヲ緊要トスルヤ

答 羊尾ヲ最モ緊要トス是其方法ヲ誤ルハハ夫ニ損失
ヲ来ス故ナリ

問 蕃殖ニ付テ異リタル方法アリヤ

答 動物ノ蕃殖ニニ様アリ一ハ全族蕃殖ナリ一ハ異族蕃
殖ナリ全族蕃殖トハ親^族ノ配合ニシテ例ヘハ子羊ニ
父羊ヲ用ユルモノニシテ此蕃殖ハ大ニ忌メリ異族蕃
殖トハ血統ヲ異ニスルモノ、蕃殖ニシテ甲牡羊ノ子
ニ乙牡羊ヲ配合スルモノナリ牧畜家多ク此蕃殖ヲ採

レリ

問 純粹雜種ノ名称ハ如何

答 牛ニ同シケレバ茲ニ累

問 何歳ニシテ交尾セシムルヤ

答 初偶ノ良期ヲ牡三歳牝ニ歳トス而テ配偶力アル時
限ハ牝ハ八歳牡九歳トス種牡羊ノ頭数ハ牝五拾頭ニ
頭ノ割合ヲ以テ配合セシム然レモ其健全ヲ思ヘバニ
十頭乃至三拾以上ノ牝ニ配合スベカラズ

問 如何ナル方法ニテ交尾セシムルヤ

答 當場ニテハ牡一頭ニ牝三拾頭ノ割合ニテ五十日間牝
群中ニ入レ置クナリ但シ夜ハ牝群ヨリ引キ離シ置ク
ナリ

問 何月頃ヲ支尾ノ良期節トスルヤ

答 羊妊娠ノ期ハ大約百五十日間ナルヲ以テ當場ニテハ

十一月中旬ヨリ一月中旬迄支尾ノ間五十日間トスレ

バ來春四月青草盡ク萌芽シタル頃ニ分悦ス

問 羊尾後牝牡羊ノ注意ハ如何ナルヤ

答 支尾後ハ牝牡トモ麦類穀等ノ飼料ヲ増シ與ルヲ善シ

トス

問 冬季羊何様ニ放牧スルヤ

答 冬季羊ヲ放牧スルハ大約午前十時ヨリ午後四五時ノ

間ニ在レ氏若シ雨雪等ニテ寒威甚ク凜烈ニシテ人ニ

モ堪ヘ難キ程ナレバ樹下又ハ舎内ニ集メテ保護スベ

シ

問 冬季飼養ニ如何ナル食物ヲ要スルヤ

答 當場ノ青草ハ大約十一月初旬ヨリ萎枯シ次年四月ニ

至リ萌芽スルヲ以テ此枯草ノ間飼料ノ量ヲ漸次増減

シ與テ其飼料タル穀物ハ大小麦藜蕎麥玉蜀黍菜根

ニテハ燕善羅菊日薯馬鈴薯飼料草ニハ乾草燕麥稗

等ヲ用フ

問 乾草菜根穀物類ハ一日壹頭ニ凡ソ幾何ヲ與フルヤ

答 菜根類ハ之ヲ細切シ一日壹頭ニ大約百貳拾目ヨリニ

百四拾目トスルモ菜根ノニ與フル時ハ此限ニアラズ乾

草ハ十月上旬ヨリ一日一頭ニ付大約三百六拾目乃至

四百八拾目ノ割合ヲ以テ昼夜共ニ飼與ス乾草ハ外國

種ノ量ヲ得難ケレバ已ヲ得ズ在來粗惡ナル天然草ノ

滋養少キモノヲ與フル故補食トシテ穀物ヲ與フルナ
リ

問 外國種ノ重ナル牧草ノ種類ハ數多アリヤ

答 先ツ苜蓿苓蔴香稈麥草猫尾草赤頭草等ヲ最トス而
シテ是等ノ牧草ハ一種類ヲ下種スルモアリ又各種ヲ
混合シテ下種スルモアリ

問 牧草中如何ナル草ヲ最モ好シテ食スルヤ

答 前ニ述ベシ州ハ何レモ好シテ食セリ

問 牧草ニテ飼養スル牝ハ一頭ニ付何程ノ地積ヲ要スルヤ

答 種類及ヒ頭數ト草ノ狀態ニ由テ異ナレモ通例メリノ
山ノサウス如シハ壹町歩ニ付拾頭ヨリ拾五頭ナリ當場ノ
ノ如キ草質ニテハ壹町歩ニ付二頭位ナリ

問 春季ノ管理中要ナル取扱ハ何ニナルヤ

答 春季取扱中ニ最モ意ヲ注クベキハ仔羊分娩ノ一斷尾
ノ一擧丸割去等ナリ

問 分娩後母仔ノ取扱ハ如何ナルヤ

答 分娩後ノ母仔羊ハ未タ分娩ノ群ト區別シ産後ニ三日
ヲ経レバ兼テ前年ヨリ整へ置キタル牧草地又ハ稈麥
地等へ母仔トモ放ツベシ最モ一時ニ多食セシメザル
様初日ハ一時間次日ハ二時間ト漸次ニ放牧時間ヲ増
シ逐ニ繼日及ホス要ス

問 擧丸ヲ斷ツハ出生後何日ヲ以テ適當トナスヤ

答 出生後七日ヲ以テ切斷ス可キ期トス

問 擧丸ハ何ノ為メニ切斷スルヤ

〔答〕種畜ハ需用ナキ種類体格ノモノハ宰殺ヲ去ルナリ是
レ性質ヲ穏和ニシテ肥満ヲ促ス為ナリ

〔問〕羊児ノ尾ヲ断ツハ出生後何日目ナルヤ

〔答〕強健ナル羊児ハ産出後五六日ヲ経シバ牝牡トモニ尾
ヲ切斷スルヲ得ベシ此事ハ羊ノ体格恰好ヲ觀善クシ
且下痢病ヲ發セシキ不潔ニナラサル為ナリ

〔問〕百頭ニ付仔羊産出ノ比例ハ幾何ナリヤ

〔答〕刈リノウ羊ノ如キハ母羊百頭ニ付仔羊八拾頭ノ比例
ナリ刀レスタリノ如キハ母子ヲ産スル故此限ニアラズ

〔問〕分娩ノ後何箇月ヲ経テ母羊ヨリ仔羊ヲ引離スベキヤ

〔答〕五箇月ヲ以テ適度トス

〔問〕春日牧場ニ青草萌芽スル時羊ヲ放牧スルハ終日ナリ

ヤ

〔答〕下痢ヲ發スル此レナル故初日一時間位ヨリ漸次時間
ヲ増シテ遂ニ終日ニ及ホスベシ

〔問〕夏季ノ取扱ハ如何ナルヤ

〔答〕剪毛及ビ牧場ノ管理ナリ

〔問〕剪毛ノ季節ハ何月頃ナルヤ

〔答〕當場ニ於テハ六月初旬ヨリ初ハ

〔問〕剪毛スル方法大畧ハ如何

〔答〕剪毛場ハ清潔ナル板床ヲ撰ヒ剪毛者ハ羊脊ヲ斜ノニ
我方ニ挽付ケ羊頭ヲ左手ノ下ニ置キ頸邊ヨリ前方始メ
右腹部ヨリ脊部迄真直ニ剪ミ成ル大ケ右側ノ方脊行
ヲ越ス位ニ剪ミ以テ置キ羊身ヲ轉シ剪ミタル方ヲ床上

ニ据へ腰ヲ曲ケテ羊頸ニ涉タシ九側ヲ剪ミ終リニ四肢ノ毛ヲ剪除ス

問 一人ニテ一日何頭ヲ剪毛スルヤ

答 種類ニ由レ氏ノメリノ一羊ニテ一人一日ニ拾頭ヨリニ拾五頭ナリ

問 何歳ヨリ剪毛スルヤ

答 満一歳ヨリ剪毛スルナリ

問 剪毛後如何ナル取扱ヲナスヤ

答 剪毛後寒胃シ易キモノナレバ雨天ナドニハ注意シテ保サ護スベシ又疥癬及ヒ蠅蛆ヲ防スル為ニ羊ヲ煙草ノ洗汁ニ浸スナリ是レハ氣候煦温ニシテ快晴ナル日ヲ撰ビ施スナリ

問 夏季牧場ノ管理ハ如何ナリヤ

答 避暑場及飲水場等ヲ設ルト最モ緊要ナリ而シテ日中ハ飲食セザル故日暮迄放牧スルヲ要ス

問 瓜ヲ截ルトアルヤ

答 瓜ヲ截ルハ通例洗羊ノ時ニ做スナレ氏当場ニテハ洗羊ヲ為サレ故ニ浸羊ノ後ニ行フ

問 朝露ノ未タ乾カルニ放牧スルモ羊ノ為メニ害ナキヤ

答 露ノ乾キタルヲ待テ放牧スベシ

問 一人ニテ管理スル頭数ハ種類ニ因テ異ナルヤ

答 牧場ノ地形及ヒ牧夫熟練ノ専ラ共カル所ナレ氏夏日一人ニテ長毛羊ハ三百頭メリノ一羊ノ如キハ八百頭餘ヲ管理スルヲ得ベシ然レ氏ニ三百頭ニ超ヘサルヲ

安全トス

問 暴風雨ノ節ハ如何様ニ管理スルヤ

答 暴風雨ノ時ハ羊ヲ舎内ニ置キ乾キタル乾草及藁ヲ舎内ニ撒布シ乾草ヲ充分共フ可シ

問 羊ハ重ナル傳染病ハ何ナルヤ

答 疥癬及ヒ齒蹄傳染羊痘等ナリ

問 例ハハ百頭ノ羊群中ニ疥癬病羊ニ拾頭アルハ之ヲ如何處分スルヤ

答 先ツ疥癬病羊ニ十頭ヲ大群ヨリ區分シ之ニ治療ヲ施シ其他ノ羊ハ健康ナリト虫氏傳染ノ恐アルヲ以テ石灰及ヒ硫黄等ヲ以テ豫防ヲナスヘシ

問 疥癬病羊ハ如何ナル治療ヲナスヤ

答 煙草ト硫黄ノ剪汁ニテ眼鼻口ニ入ラザル様全體ヲ浸ス

ナリ剪汁ノ温度ハ華氏驗温器百五度ヨリ百二十度迄ヲ度トシ一^分乃至二分時間浸シ置クナリ此治療

法ノ外ニ石炭酸ト故麻油ノ混合物ヲ以テスルアリ又

豚油ト水銀ノ混合藥ヲ塗擦スル方アリ疥癬全瘉ノ徴候ハ皮膚層柔軟ニ復シ具身體ヲ搔カサルヲ以テ徴トス

問 下痢スル時ハ如何ナル藥劑ヲ共フルヤ

答 通常ノ下痢ハ乾食物ヲ共へ白堊劑或ハ少量ノ阿片丁^幾ヲ共フ

問 老羊ハ如何處分スルヤ

答 蕃殖用ニナラザルモノハ市上ニ賣リテ屠殺スルナリ

問 老頭ニ付一ヶ年何程ノ費用ヲ要スルヤ

〔蓋〕草地ノ頭數ニ比較シテ坪數ノ大ナル時ハ冬季僅ニ少ノ
量ノ穀菜ヲ與ヘテ一年一四五拾錢位ナリ又外國ヨ
リ輸入シテ未タ水土ニ服セズ其地ノ草ヲ好マザルキ
ハ夏冬共ニ穀菜ニテ飼養セザルヲ得ズ故ニ一箇年三
四五拾錢程ノ費用ヲ要スレド牧草ヲ播種シテ之ヲ飼
養シ冬季ニ至テ少量ノ穀菜ヲ與フル時ハ一々年四五
二三拾錢ニテ足ルヘシ然レド輸入初年ヨリ牧草地ノ
整頓スルモノニアラザレバ數年ヲ經ルノ後テテハ
能ハザルナリ

豚部

説明者 川合美清

但現物ニ就キ説明ス

〔問〕豚ノ需用ハ何ナルヤ

〔答〕肉ハ生ニテ食シ又ハ臘乾トシテ食シ脂肪ハ石鹼ニ造
リ藥用又ハ調理用トシ皮ハ乘馬具ニ造リテ最上ノ毛
ノタリ毛鬃毛ナシ骨腸屎尿ハ農家ノ肥料トナシ最モ貴
重スベキモノナリ

〔問〕貴重スベキ種類ハ何ナルヤ

〔答〕英國種ノ「ベルクシユル」ヲ最上トス第十圖ヲ看ヨ

〔問〕如何ナル食物ニテ飼養スルヤ

〔答〕養豚ハ農家副業ノ外ニシテ最モ利益アル一業ナリ而
シテ農家無用ノ餘殘物ハ勿論牛糞馬糞等ニテモ飼養
スルヲ得ベシ

〔問〕牝牡トモ何歳ニシテ交尾セシムルヤ

〔答〕牝牡トモ初偶ノ良期ヲ一歳トス

問 文尾後何日ニメ分挽スルヤ

答 百九日乃至百四拾三日迄ナリ

問 文尾期節ハ何月ナルヤ

答 三月ヲ以テ良期節トス

問 牡屯頭ニ牝何頭ヲ配合セシムルヤ

答 六頭乃至拾頭ヲ以テ度トス

問 配偶勢力アル時間ハ何歳ナルヤ

答 牝牡トモ六歳トス

農具部

説明者 辻

正 章

六馬犁

但実施ノ上説明(第十二圖)ヲ看ヨ

問 此器ノ原名ハ何ト称スルヤ

答 此原名ハ「ア」レツキニ「グ」アラ「オ」即チ初田及土犁ナリ

問 此器ハ如何ナル組織ヲナスヤ

答 犁ハ許多ノ部分相集合シ以テ一器ヲナスモノナリ即

ち土板犁底地側板犁踵等ヨリ組織シ且其効用及智力

斜傾ノ度数ニ至ル迄細論スル所ハ數時間ニシテ能ク

之ヲ説明シ得ル能ハサルカ故茲ニ畧ス

問 此器ノ効用ニ付説明ヲ乞フ

答 犁ノ農者ニ於ル本邦ノ鉄ニ於ルカ如ク土地ヲ耕耘ス

ルノ用ニ供ス而シテ其耕耘スルノ主能ハ土地ヲ碎破

シテ肥料ヲ土中ニ包藏セシムルヲ鉄ノ比ニ非ス犁鋤

ハ其方法ノ異ナルニ隨テ其名称モ亦同シカテ乃チ

集成犁法脊溝變換法壟場合併法小畦溝ヲ用ル

壟場合併法

内犁鋤方區分犁鋤法縱橫犁鋤法斜角犁鋤法不正犁法
播種犁法ニ因リテ使用ス

同何故ニ方法ヲ異ニシテ使用スルヤ

蓋耕耨谷種ノ方法ハ土地ノ性質及ヒ景況ニ應ジテ施サ
サル可ラズ譬ヘハ凹地ハ集成法ニ因テサルヲ得ス如
何トナレバ中央ヨリ着手スルヲ以テ左右ヨリ土ヲ集
ムルノ方法ナルカ故ニ自然土地ヲシテ平坦ナラシム
ルノ理ナリ又之ニ及シテ凸ノ地ハ背溝變換法ヲ施ス
ルハ其理同シ

同土地或ハ農馬ノ力ニ因リテハ頭數ヲ増減スルモ可ク
ラニ乎

蓋然リ已ニ馬ニ於テ説明セシ如リ農用種ヲ得ルルハ其

頭數ヲ減スルヤ明ナリ

同此器ノ製造代價及ヒ附屬品農馬具等ノ代價ハ幾何ナ
ルヤ

蓋此製造代價ハ金二十五圓附屬品馬具一頭分三四八
拾錢預環是頭分三四五拾錢双角是頭分三四六拾錢犁
銜一切七圓拾貳錢

同石ノ器械ハ何年ヲ保テ而シテ年々修繕ニ幾何ノ代價
ヲ費スヤ

蓋保存ハ大略八年間ニシテ修繕費ハ一ヶ月金三四圓外
ノ見込ナリ

同此器ノ重量ハ九何貫目ナルヤ

蓋此重量拾八貫目内外ナリ

同此器ヲ使用スルニハ犁丈幾人ヲ要スルヤ

答) 通常二人ヲ要ス然レモ彼ノ(実施セシ耕天ヲ指シテ云)熟達ノ犁丈ニ

至リテハ一人ニテ能ク使用シ得ルナリ

同一日ニ耕耨シ得ル段別ハ幾段ナルヤ

答) 土地ノ景況ニヨリテ差アリトモ氏概テ四段五段歩ナ

同一日ノ使用スルハ前割合ノ如ク耕耨スルヲ得ルヤ

答) 一箇年間使用スルノ日数ハ三分ノ二ニ過キズ何ト

ナレバ雨雪其他農馬ノ勞力ヲ斟酌スルカ故ニ三分ノ

一ハ休役セサルヲ得ズ

同農馬屯頭一箇月ノ飼料費ハ幾何ナルヤ

答) 目下ノ物價ニヨレバ金六円ヲ要ス然レモ當場收穫品

ヲ用ケレバ金五円ヨリ多カラズミテ足レリトス是レ

大麥ニ換エルニ甘藷ノ類ヲ以テスレバナリ

三馬犁

但實施上ノ說明第ナ三圖ヲ看ヨ

同此器ノ原谷ハ何ト称スルヤ

答) 是ハ「ストロント」即チ熟畑犁ナリ然レモ土地

ニヨリ其装置ヲ堅固ニナスハ又能ク初回反土ノ用

ニ充ヘキモノナリ

同何故ニ他ノ犁刀ト異リタル四形犁刀ヲ用ケルヤ

答) 此犁刀ハ熟圃ノミニ用ケル土地ノ柔軟ナルカ故ニ他ノ

犁刀ヲ用ケルハ雑草ヲ切ル能ハサルノミナラズ耕

耨歪斜ヲ做スナリ

同一日耕耨シ得ル段別ハ何段ナルヤ

蓋三段歩ヨリ三段蘇米備設ナルヤ

同此器ノ製造代價何程ナルヤ

蓋拾九円五拾錢

同此器械ハ何年ヲ保テ而シテ年々修繕ニ何程ノ代金ヲ費スヤ

蓋保存ノ年間ハ大畧十年間ニシテ修繕費ハ一箇月七拾錢ノ見込ナリ

同此器ノ重量及犁夫ハ何人ヲ要スルヤ

蓋重量凡拾二貫目内外ニシテ犁夫一人ニテ使用ス一馬犁

但實施ノ上説明(第十四圖)ヲ首ヨ

同此器ノ原名ハ何ト称スルヤ

蓋此器ノ原名ハ「カ」リデニアラオ即ケ花園犁ナリ

同一日耕耨シ得ル段別何段ナルヤ

蓋一段五畝歩内外ヲ通常トス

同然ルハ三馬犁ト耕耨ノ割合適セザルノ理如何

蓋元來器各ニ於ルカ如ク菓園菜圃ヲ耕鋤スルノ器ニシテ深ク耕ス能ハサルノミナラズ人馬ノ煩勞甚々多シ故ニ一ケ年ヲ通算スレバ此割合ヨリ減スルノ理ナリ

同此器ノ製造代價幾何ナルヤ

蓋十四円

同此器械ハ何年ヲ保テ而シテ年々修繕ニ何程ノ代金ヲ費スヤ

蓋保存ノ年間大略十年間ニシテ修繕費ハ一箇月四拾錢

ノ見トナリ

同此器ノ重量ハ幾何ナルヤ

差五貫四百目

肥部

但實施ノ上説明(第十五圖)ヲ看ヨ

同此器ノ原名及効用ハ如何

答原名ハ口ト称ス犁ニテ耕耨シタル後ニ用井草根ヲ聚メ土塊ヲ碎クノ功アリ吾邦ニテ可能又今シガト称スル器ノ効用ニ同シ又或時ハ播種シタル後ヲ耙キテ土ヲ覆フニ用ウ

同一日幾段歩ノ地ヲ整頓スルヤ

答土地ノ難易及耕耨ノ精粗ニ由リテ差アレ氏新築地ハ

三段歩ヨリ五段歩ヲ常トス熟地ハ六段歩ヨリ一町歩ニ至ル

同此器ノ製造代價及保存年限ト修繕ノ費用幾何程ナルヤ

答此器ノ代價ハ拾五円保存ノ年間ハ大畧拾五年ニシテ修繕費ハ一ヶ月ハ拾錢ノ見込ナリ

同此器ノ重量及之ヲ使用スル農馬ト耕夫ノ数ハ如何

答此器ノ重量ハ拾八貫目内外ニシテ農馬ハ三頭耕夫ハ一人ヲ以テス然レ氏土地ノ難易ト器械ノ重量トニヨリテ馬数ヲ増減スルナリ

畫線兼復鐘鋤

但實施ノ上説明ス(第十六圖)ヲ看ヨ

問此器ノ原名及効用ハ如何

答此器ハ當場ニ於テ畫線器鑿鋤等ヲ折衷シ發明セシ器ニシテ農馬一頭耕夫一人ニテ施用ス一日ニ町歩ヲ整頓ス

問此器ノ製造代價幾何ナルヤ

答七円五拾錢ナリ

鑿鋤

但實施ノ上說明第十七圖ヲ看ヨ

問此器ノ原名及効用代價等如何

答原名「シヨ」ブルプラオト云フ通常場圃ノ畦切ニ用ク一日馬一頭耕夫一人ニシテ一町五段歩内外ヲ整理ス此器ハ重量三貫五百目アリ代價ハ四円五拾錢ナリ

除草器

但實驗ノ上說明第十八圖ヲ看ヨ

問此器ノ原名及効用代價等如何

答原名「カ」ル「ベ」ルト「ト」ト云フ通常作物ノ畦間ニ生スル草ヲ剷除スルニ用ク一日馬一頭耕夫一人ニシテ一町五段歩内外ヲ整理ス此器ハ重量九八貫五百目アリ代價拾五円

三連鋤

但實施ノ上說明第十九圖ヲ看ヨ

問此器ノ原名及効用代價如何

答此器ハ當場ノ發明ニシテ作物ノ赤々長茂セサルハ鑿鋤ノ用ニ供シ且ツ畦ヲ一回ニ切ルノ至便ナリ馬鹿

頭耕夫一人ニテ四町歩内外ヲ整理ス此器ハ製造代價

金
剪草器

但實施ノ上説明(第二十圖)ヲ看ヨ

問)此器ノ原名ハ何ト稱スルヤ

答)原名ハ「モーニングソシ」ト云フ

問)此器ノ効用及ヒ製造代價保存ノ年間修繕ノ費用及之

ニ要スル人馬ノ数等如何

答)此器ハ今ヲ距ル一二拾四五年前英國ニ於テ万国勸業

博覽會ノ場アリシ時ニ米國人ノ出品ニ係リ其効用ノ

著シキヲ以テ初ラ各國一般ニ施用スルニ至レリト聞

ク其効用ハ人力ヲ省クハ勿論其効力ノ盛ナルコト一

日馬ニ頭農夫一人ニテ施用時間八時ニシテ三町歩ノ
草ヲ刈リ得ル一確然保証スル処ナリ
此器ノ代價ハ而六十五円保存ノ年限ハ大略十年ニシ
テ使用中ノ修繕入費ヲ平均スレバ一日三拾銭内外ノ
見込ナリ

問)他ノ器械ニ比スレバ修繕入費ノ多キハ如何

答)如斯精巧ナル器械ナレバ部分ニヨリ働カレシキ為メ

ニ自然磨滅スルエハ隨テ修繕入費モ多キナリ

收穫兼刈草機

但現物ニ就テ説明(第二十一圖)ヲ看ヨ

問)此器ノ原名如何

答)原名「セルフレキ」リビーンゲマシン」ト云フ

(問)此器ノ効用及ヒ製造代價保存年限修繕ノ費用及之ニ要スル人馬ノ数等ハ如何

(答)此器ハ刈草器ト同時ニ各圃ニ行レタリト聞ク効用ハ大小麦、燕麦、陸綿其他牧草ヲ刈リ収ムルニ最モ便ナリ一日馬四頭農夫一人ニテ施用時間ハ時ニシテ三所歩以上ヲ收穫マリ又装置ヲ換ルルハ通常剪草器ノ用ヲ為スモノナリ此器ノ代價ハ二百廿三圓ニ保存ノ年限ハ剪草器ト同シ

(問)剪草器トハ効用ニ於テ何レノ差アルヤ

(答)通常剪草器ト異ナルノ効ハ穀物ノ脱粒ヲ防キ適宜ニ取末子之ヲ散乱セサルノ便益至妙ナリ

馬糞

但實施ノ上説明(第二十二圖)ヲ看ヨ

(問)此器ノ原名ハ何ト称スルヤ

(答)原名「ホースレキ」ト云フ

(問)此器ノ効用ト製造代價ハ如何

(答)此器ハ剪草器ヲ施シタル後剪草ヲ集ルノ用具ニテ馬一頭農夫一人ヲシテ使用ス一日ニ集ル知ノ所歩ハ五

所歩以上ナリ製造代價金七磅五圓

原名「ホースレキ」

但實施ノ上説明(第二十三圖)ヲ看ヨ

(問)原名ヲ用サレハ何故ナルヤ

(答)此器語ハ文字ヲ用カルト至ク吾邦從來ノ器械ニ比較スルヲ得ス故ニ姑ク原語ヲ用フ

問)此器ハ如何ナル効用アリテ其代價ハ幾何ナルヤ

答)此器ハ形状ニヨリテ其用法ニ異ニス長柄ニ義ハ束ネ

タル乾草ト藁等ヲ運用スルニ至便ナリ三義ハ束ネ

ル乾草等ヲ堆積スル等ニ用テ四義五義ハ肥料混交等

ニ用テ各其同ウル処ニヨリテ効用異ナリ代價ニ義ハ

長四七拾錢三義ハ長四九拾五錢四義ハ或四拾五ナリ

農馬車

但現物ニ就テ説明(第二十四回)ニ者ヨ

問)馬車ノ効用及代價如何

答)四輪馬車ハ穀菜等ヲ運路ニ運輸スルノ使アリ又乾草

ノ如キ其容大ナルモノヲ運搬スルニハ車止ノ或ヨク

リテ之ニ換フルニ如斯塵ヲ装置シ乾草二百五拾貫目

以上ヲ積載ス有函ニ輪馬車ハ穀菜及ヒ肥料ヲ積卸ス

ルニ容易ナルト狹隘ナル地ニ於テ履轉スルノ使アリ

此積載ノ量ハ拾貫目以上ナリ棒立ニ輪馬車ハ容量十

ニ登積乾草及苞物又ハ水糞等ヲ運搬スルニ便ナリ四

輪馬車ノ代價ハ石拾六両有函ニ輪馬車ハ六拾七兩棒

立ニ輪馬車六拾八兩ナリ

此他蓋乾脱稼器馬力脱稼機乾草壓搾器碎穀器玉蜀黍

脱粒器載稿器馬力播種器撒播種器集根器軋軸挽車等

アレ共キ田博覽會ニ陳列アルガ故ニ諸君ノ歴覽セリ

レタルナラン又脱稼機乾草壓搾器ノ如キハ其季節ニ

非ラサレバ使用セサルカ故ニ茲ニ畧ス

雜問

問 人耕ト馬耕トノ得失如何

答 馬耕ノ益マルトハ其畧概ニ就テ辨解セシ如キナルヲ

以テ茲ニ畧ス目下當場ノ畜夫賃銀ハ一人金貳拾弍十

リ故後未耕作ノ仕方ハ各位ノ熟知セラル、処ナレハ

前畧概ノ効用ト比較スル片ハ其得失明瞭ナルベシ

問 當場ニ於テハ何等ノ穀菜ヲ播種スルヤ

答 大小麦及燕麥大豆稗玉蜀黍麥蕎麥甘藷苜蓿青馬鈴薯

其他陸稻等ナリ

問 其他ノ穀菜ハ地味ニ適セサルヤ

答 地味ニ適セサルニ非ス當場ニ播種スルモノハ主トシ

テ動物ノ飼料ニ充ツル故ナリ

問 陸稻ハ動物ノ飼料ニ適スルヤ

答 陸稻ハ貴重ナル牛馬ノ麻糲ヲ地ヨリ購求セサルノ見

込ヲ以テ播種ス故ニ藁ヲ主トスルモノナリ而シテ米

ハ既肥混交物ト交換セリ

問 既肥混交物ハ多ク何々ノ物ヲ用ウルヤ

答 効用ノ著シキモノハ骨粉獸糞腐汁人糞ナリト虫屎多

ク得難キ故ニ糠乾鰵魚鱗貝灰蔴灰等ノ類ヲ以テ之ヲ

補フ

脱稈畧 第二十五圖 第二十六圖ヲ看ヨ

問 此ノ畧ノ原名ハ何ト稱スルヤ

答 スラウツシングノシ井ノト云フナリ

問 効用如何

答 此ノ畧概ノ効用ハ一日ハ時間ニ麥ハ八拾五斤ハ四拾

右ヨ容易ニ脱粒ニ得ルモノナリ

同種用後事者ハ何人ヲ容スルヤ

吾概關士迄人外ニ農夫七人合計八人ニテ運轉ノ効カラ

全ツルナリ

同種轉一日間ニ要スル費用總計ナリ

同種後事者給料及物價ノ高低ニ因テ一定セストモ概略

左ノ如シ

從事者ハ八人ノ給料平均合計銀四三拾貳文

蒸米燃料物薪 七十四拾貳文代價金四十四拾四文

六聖 一日ニ付石五拾本幣

合蒸米用「カストン」油貳斤金三拾六文

合 蒸米油 代價金拾五文

合計金七圓七拾七錢

同此ノ吾ノ代價總計ナリ

吾米國ヨリ買入代價金ナニ拾八圓四拾九錢貳厘外ニ

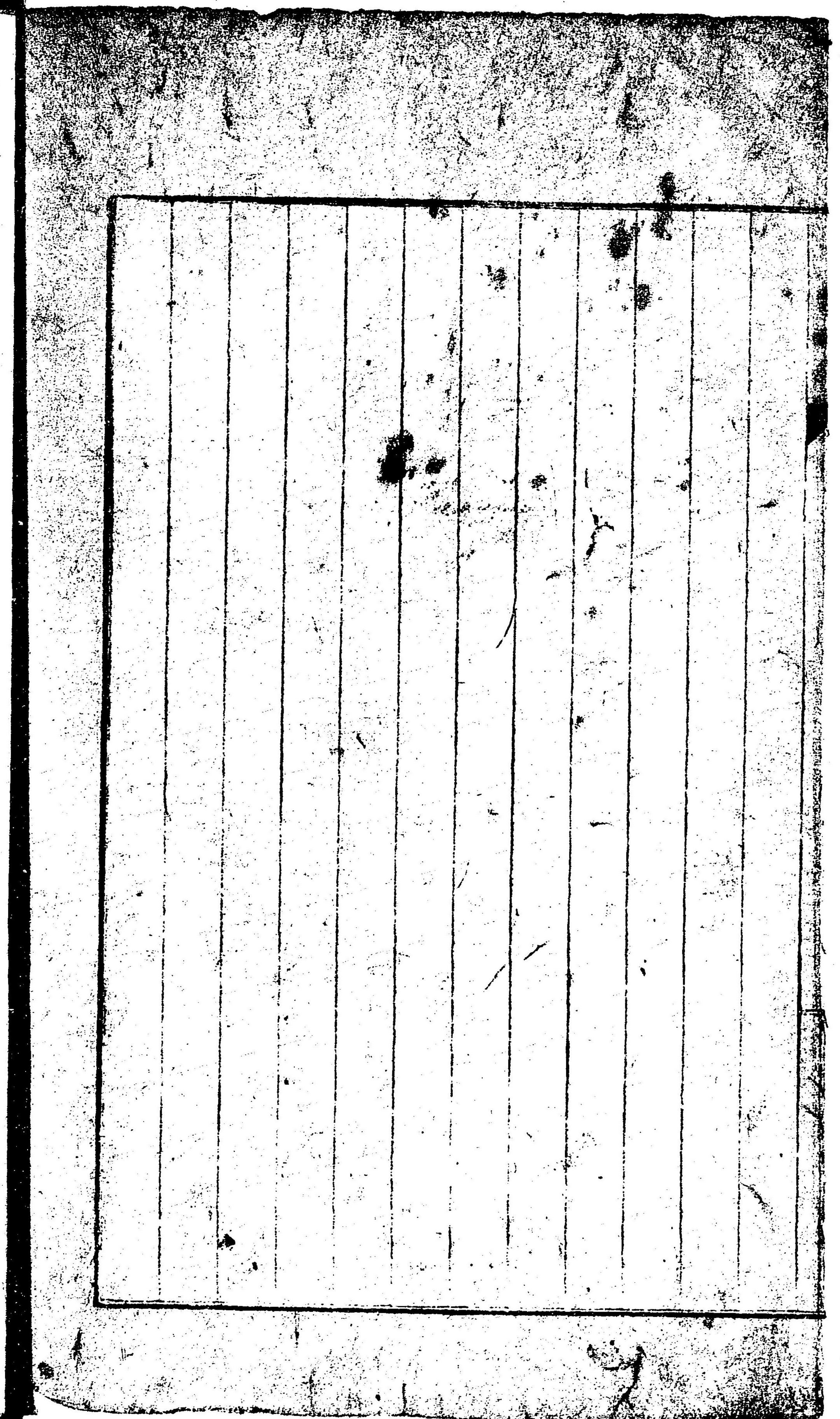
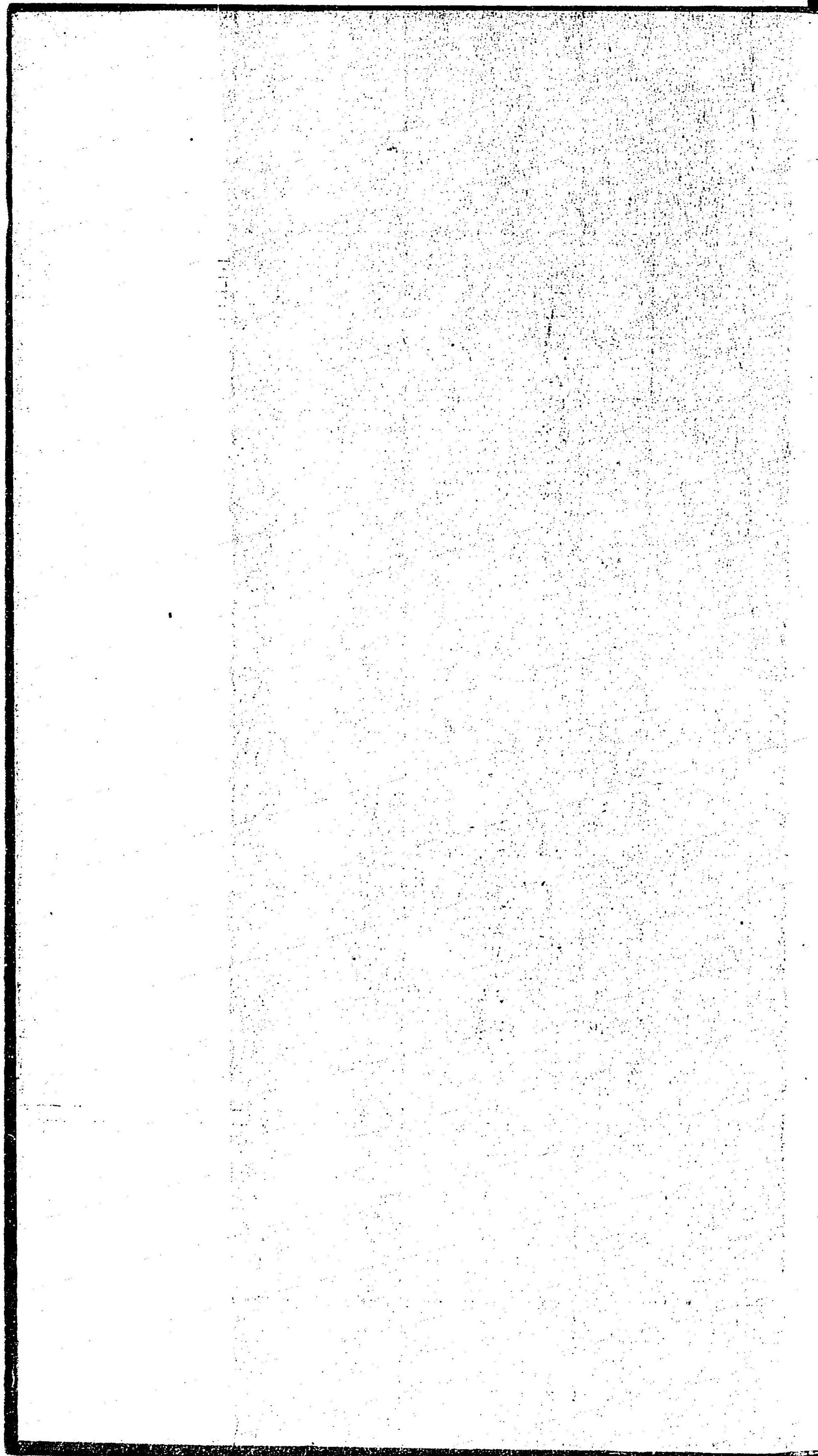
蒸米罐代價金貳十八圓三拾八圓九拾四文八厘

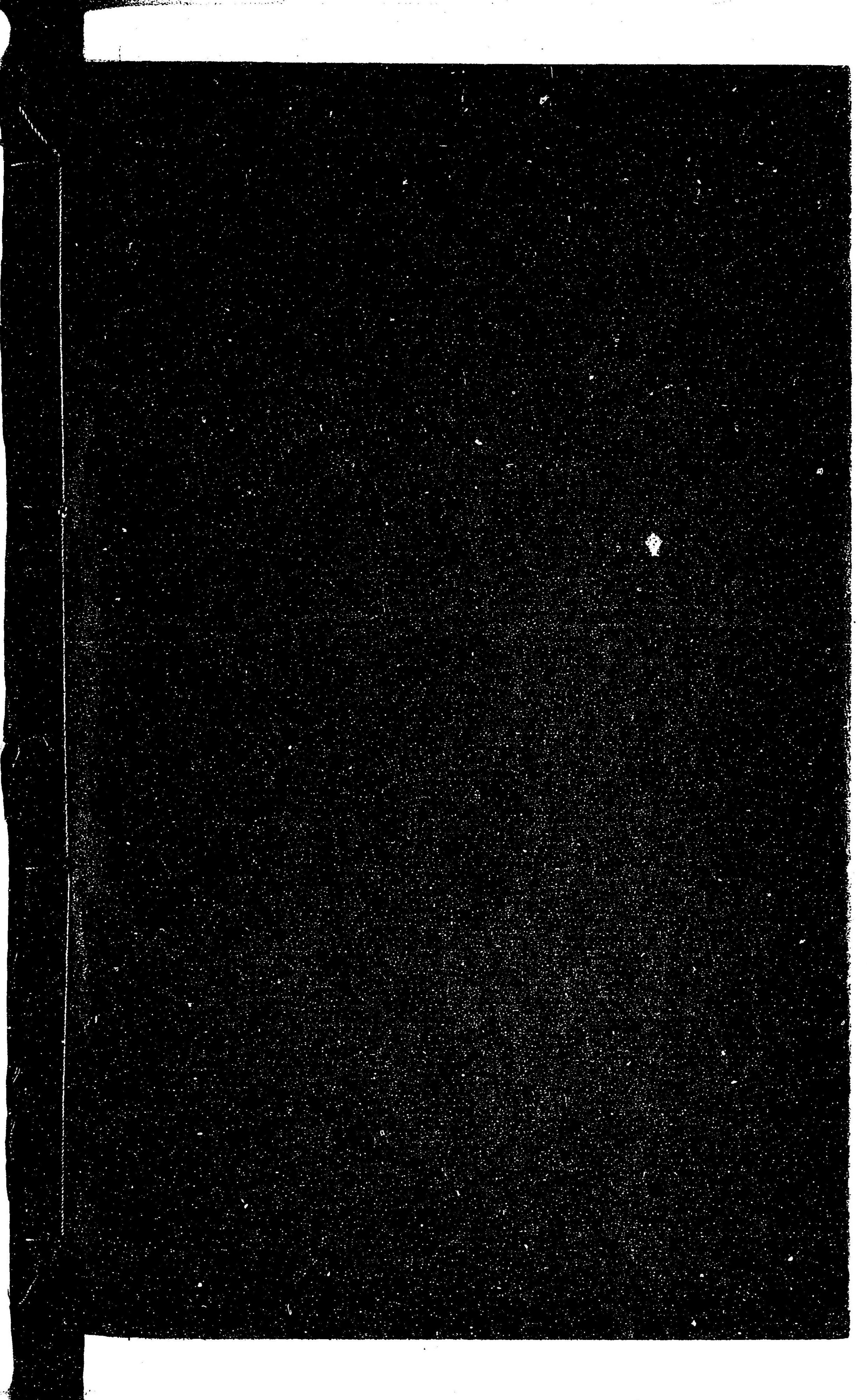
合計金三十九圓七拾四拾四文

但レ原價及米國ヨリ下送種畜場迄運送費共一

拾ノ費ニシテ如斯高價ナルハ吾國ノ洋銀相場

ニ依ラレテ割利費抑ツルニタリ





W373
12

300406-000-4

W373-12

下総種畜場事業問答記

波多野 尹政 / 諮問総代

辻 正章 / 等応答者

1冊

1882

BDJ-0012

